

常盤工業会誌

常盤工業会誌



2024

2

no.
92

一般社団法人 常盤工業会

— 目 次 —

ご挨拶	副会長 倉田 茂夫(工化56)…… 1
	副会長 望月 信介(院機61)…… 2

常盤工業会より活動報告

「常盤アドバンスドレクチャー 2023」開催報告	
実行委員長 柿本 雅明(工化50)…… 3	

大学・工学部だより

ご挨拶(工学部だより)	
工学部長 山田 陽一…… 7	
新任教員紹介	
山田 悠二(社建)…… 9	
技術コラム	
麹菌の産生する界面活性タンパク質ハイドロ フォビンの研究	
応用化学科助教 寺内 裕貴…… 10	

工学部オープンキャンパス2023報告	
感性デザイン工学科教授 鵜 心治…… 12	

工学部キャンパス将来計画の要としてのラーニ ングラボ	
感性デザイン工学科教授 岡松 道雄…… 14	

「Area-C」の誕生	
工学部総務企画課総務係 …… 16	

山口大学における研究支援体制のご紹介	
山口大学大学研究推進機構 産学公連携・研究推進センター …… 18	

学生会員だより

留学生として日本に来て	
LIU XIAOXI (M電情R5)…… 20	
BAI YU (M電情R5)…… 21	

宇部市うべスタートアップ “ビジネスプランコ ンテスト2022” 最優秀賞受賞に際して	
横山 駿(M電情1年)…… 22	

コロナ禍における学生生活とサークル活動 (留学生サポーター)のこと	
江口 和駿(知情4年)…… 24	

「ときわスマートチャレンジ」令和5年度採択 団体紹介 …… 26	
-------------------------------------	--

私は今

土木業界のより良い未来のために今のわたし ができることを	
木村 真也(社建H14)…… 28	
宇部での日々を過ごして	
加納 奈津花(感性R4)…… 30	

地域同窓会だより …… 32

会員だより

思い出ー海外赴任時のエピソードー	
和田 宏(機械33)…… 34	

短信 …… 35	
会員の訃報 …… 36	
告知板 …… 37	
会費納入のお願い …… 38	

編集後記

表紙の写真：ラーニングラボ(L-Lab.)の風景
(撮影/岡松 道雄教授)

表紙写真、向かって右側がL-Lab.で左側が図書館側カ
フェ (FAVO Cafe)となります。L-Lab.は工学部キャン
パス将来計画の要としての役割が期待されている施設
です。(関連記事P.16)

ご挨拶

副会長 倉田 茂夫（工化56年卒）



会員の皆様方には、平素より常盤工業会の活動に対し、ご理解と多大なるご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。令和5年5月の総会で副会長を拝命しました倉田茂夫（くらたしげお）と申します。

私は、1981年（S56）に工業化学科を卒業し、宇部興産(株)に就職しました。宇部興産では、医薬品のプロセス開発の後、製造部門、生産技術部門、医薬品工場の建設プロジェクト、営業開発部門を担当した後、化学部門の品質保証を担当して、(株)UBE 科学分析センターに転籍となり、現在に至っております。入社当初の上司に、ジェネラリストになれと言われたことを心に刻んで、医薬事業では創薬以外の部署は、一通り経験しましたが、専門性に欠けるのは、他の方の意見を聞いて補うしかないと考え、取り組んできました。

さて、この度の総会で会長、副会長3名すべて交代し、新たな体制となりました。新体制下では、理事会の下に委員会を置いてこれまで以上に事業の活性化を図ることとなりました。委員会体制の全容が整うのは少し先になりますが、まずは当面の課題となっている常盤工業会のPRに関する部会と留学生との交流事業に関する部会を立ち上げました。

私は、常盤工業会のPR活動の一つとして、学生や保護者に対するPR活動を担当することになりました。学生や保護者の皆さんに各種活動に見える化し、活動内容を理解していただき、常盤工業会が身近な存在としてより

活用しやすくなるようにしていきたいと考えています。また新たな事業の検討も始めておりますので、形が整いましたらあらためてご報告させていただきます。

常盤工業会では、「常盤アドバンスドレクチャー2023」第2回を令和5年10月18日に東日本合同同窓会と合わせてハイブリッド形式で開催しました。講演内容は本誌に報告記事がありますのでご参照ください。

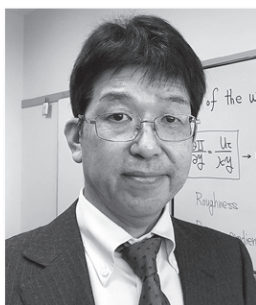
11月18日には、コロナ禍で開催できなかった地域同窓会代表者会議を4年ぶりに対面で開催しました。各地域のみなさんも元気な顔を見せていただき嬉しい思いでした。一方、各地域からの報告では地域同窓会が抱える課題は年々深刻になっており、地域役員の方の苦労があらためて浮き彫りとなりました。個人情報を集めることが難しい時代ですので今後の地域活動の在り方は検討していかなければならないと強く感じました。会議当日は、工学部ホームカミングデー、常盤祭が開催されており、会議の後はそれらの行事に参加し、夕方は懇親会で交流を楽しみました。

今後は、このような対面での集まりも大切にしながら時代に即したコミュニティの形を考えていきたいと思っています。本会の活動については、ホームページで案内や報告をしていますのでぜひともご覧ください。

最後になりましたが、常盤工業会のすべての事業は、会員皆様方からの会費で運営されています。出費多端の折とは存じますが、なにとぞご協力賜りますよう伏してお願い申し上げます。会員の皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。

ご挨拶

副会長 望月 信介（機械工学科教授・院機械61年修了）



令和5年度総会にて副会長を拝命しました機械工学科の望月信介（もちづきしんすけ）と申します。昭和61年に大学院修士課程機械工学専攻を修了し、機械工学科にて教員を務めております。会員の皆様には、本会並びに本学の活動に対してご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

就任早々ではありますが、本会の事業の一つとして掲げている日本人と留学生との交流事業の立案を担当することになりました。本会の留学生に関する事業は30年以上にわたり、「宇部留学生交流会」（協賛者による協賛金を資金とし、事務運営は常盤工業会が担当）と共催で行い、工学部他宇部市内で学ぶ留学生の支援や日本人との交流活動を行ってきました。協賛団体や協賛個人のご尽力もあり、母国を離れて苦学する留学生に対し温かい支援活動を長きにわたって行い、国際的活動においても多方面から高く評価されてきましたが、韓国、中国、マレーシアといった国も豊かになり、留学生を取り巻く環境も大きく変化してきたことから「宇部留学生交流会」も一定の役割を果たしたということで、本年3月末に解散しました。今後はその活動を常盤工業会が事業の一つとして時世に合った形で継承していくこととなります。

本学にも国際総合科学部が設置され、グローバル化のかけ声のもとに多様性を受け入れる試みが活発になされてきました。多様性の拡大に比例するように格差も拡大し、紛争や訴訟が増え、昨今では戦争に至る事態にな

り、アンチグローバル化を意識せざるをえない状況です。モノづくりを豊かな人間社会に活かすには人類の知恵が必要です。アインシュタインの発明もエネルギーとして活用可能ですが、兵器として住民を苦しめる汚染源にもなります。これらを左右するのは扱う人の教育とその在り方で、SDGsの普及が必要です。多様性を享受するには、コミュニケーションにおける自己表現、相手の理解と他人への思いやりを持った社会性が必要で、その修得には個人の実践を通じた継続的な学びと努力が不可欠で、その場を提供することは貴重です。

10年ほど前になりますが、工学部において国際交流支援室長を務めていた際には、留学生の支援をしたいと日々活動している学生、また様々な国の学生がチームとして取り組むプロジェクト活動の支援を行っている教員たちの活動を後押しし、わずかばかりの経済的支援をさせていただきました。一部の活動は、国際共著論文になり、JASSOからの留学費用支援にもつながっています。

常盤工業会の部会では、留学生、日本人学生、教員が主催する活動を対象として、文化的交流により国際的友好関係を深める活動、チームとしてプロジェクト等に取り組む等国際的共学の活動やイベント等の支援を行うことを検討しています。工学部教員や事務、学生の声を聴きなが今年度末までに具体的支援策を完成させ、来年度から運用したいと考えています。

皆様からのご支援、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

「常盤アドバンスドレクチャー 2023 ～未来を切り開く技術開発～」開催報告

令和5年度実行委員長 柿本 雅明（工化50年卒）

「常盤アドバンスドレクチャー 2023」第1回は、令和5年5月27日に比嘉 充先生（山口大学工学部循環環境工学科教授）の講演を常盤工業会会館で行い、第2回は10月14日に上西 研先生（山口大学副学長）と幸西 義治氏（丘の上幸西ワイナリー代表）の講演をビジョンセンター田町においてハイブリット形式（対面+オンライン配信）にて行いました。以下に講演内容を紹介します。

第1回講座「海水と淡水から電気を生み出す 逆電気透析発電の原理と最近の技術動向」

講師：比嘉 充先生（山口大学教授）

開催日：令和5年5月27日



塩分濃度差エネルギー（SGE）とは海水と淡水が混合するときに生じるエネルギーです。実際に河口付近では海水と川の水が交わるとSGEが生じていますが、この膨大なエネルギーが常に熱として消えています。1tの海水と1tの真水を混合すると500Wアワーのエネルギーが生まれることが知られていて、このエネルギーが使えれば環境に優しい

エネルギーとなります。自然エネルギーを使う発電としてよく知られている風力発電や太陽エネルギー発電は、設置するのに場所が必要で、設置面積に対する利用率が20%程度であるのに対しSGEでは90%の効率が得られるとされています。また、地下にも設置できるので都市部に設置も可能です。SGEには浸透圧発電（PRO）逆電気透析発電（RED）の2種類があります。水は通すがイオンは通さない半透膜で海水と真水を区切ると、真水側から海水に水が移動します。その圧力で水を高く上げて、高く上げた水を別の管から落とすことで発電機を動かすというのがPRO発電です。いわば基本的に水力発電と同じです。

一方REDではイオン交換膜を使用します。イオン交換膜とは陽イオンまたは陰イオンを選択的に透過する膜のことです。陽イオン膜と陰イオン膜を交互に並べてそこに海水を通して、直流電圧をかけると、塩が濃縮された部分と、薄められた部分が交互に発生することとなり、濃縮された部分を集めれば、結果として高濃度の塩水を作ることができます。現在、塩はこの方法で造られています。

そこでこの装置に逆に海水と淡水を流してやれば直流の発電ができるということになるわけです。この発電方式の最大のメリットは海水と淡水をただ装置に流せばいいだけで、余分な圧力をかけるポンプなどのエネルギーを必要としません。しかし、そう簡単なものとは運びません。この装置の最大の問題は

内部電気抵抗です。特に淡水は電気を通さないで内部抵抗が大きくなります。この内部抵抗を小さくするためには、陽イオン膜と陰イオン膜を並べたスタックの隙間を小さくする必要があります。しかし隙間を小さくするとゴミなどが詰まってしまう可能性があり、いかにゴミを除去しながら隙間を小さくしていくかというのが一つの技術的な問題となります。この装置の実証実験は日本とオランダで行われており、オランダでは堤防を利用して大規模な実証プラントができています。しかし、オランダの場合は水温が低く効率が悪いという問題があります。日本の沖縄で行っている実験では、海水の温度が高いため、オランダよりも40%ぐらい高い効率になることがわかっています。沖縄では世界最大の300対のスタック数を持つ装置を建設し、260Wの発電を行っています。

RED発電はあまり知られていない発電なので、山口大学工学部では、RED発電でLED電球を発光するデモを行い皆さんに知っていただくように努めています。将来の実用のことを考えると、86,000m³/hの海水と淡水を供給するREDプラントを建設すれば、400台の50kWスタックが稼働し、17MWの電力が得られると試算しています。脱炭素エネルギーとして実用化できるように公的な支援を期待しています。



.....
第2回講座 I 「明日の山口大学ビジョン2030」の実現に向けた山口大学の研究戦略
講師：上西 研先生

(山口大学副学長・機械58年卒)

開催日：令和5年10月14日



山口大学は、昨年4月に学長が交代し、新たに「明日の山口大学ビジョン2030」を作成しました。「知の創造としなやかな人材の育成により地域に・世界に貢献する山口大学」がこのビジョンの目指すところです。研究面では、「総合大学の知を集め、イノベーションの連鎖を地域から世界へ」というスローガンを掲げています。基本的な五つのビジョンを紹介します。

1. 地域イノベーションエコシステムの構築

これにはオープンイノベーションが重要です。山口大学版オープンイノベーションとは、地域課題を解決するために、山口大学が県や市町などの地方公共団体と協力しながら、地域企業（大企業、中堅企業、中小企業）／スタートアップと協働し、多様な知を有機的に結合させて、地域を実証フィールドとしてイノベーションを加速する方法論です。

大学研究推進機構に地域課題プル型の産学公民連携研究拠点を設置し、山口大学の多様性を活かした課題解決型（バックキャスト型）の研究開発を核にイノベーションを次々に創出し、地域の社会資本を増大させます。この仕組みの中から、飛躍的に成長する企業が生

まれ、地域が発展し、そこから還元された「知」「人材」「資金」により山口大学の教育・研究を充実・発展させるものです。

産学公連携による予防医療研究体制の確立を目指して、民間企業3社と山口県、山口市、山口大学が共同で予防医学推進コホート研究センターを作り、活動を開始しています。これは、医療機関、民間企業の医学研究や臨床フィールドを応用して、先進的な予防医療の取組による山口県民の健康増進と産業振興、地域活性化を目指すものです。

もう一つは、地域レジエンス研究センターの設置です。産学公が連携した超領域の先端技術の気候変動・パンデミックや高齢化・人口減少などに対して、自然環境、インフラ、ヒトのレジリエンスを高めることによって、持続可能なスマート社会システムを構築することを目標とするものです。

2. 世界をリードする研究領域の創造

大学付属研究所を設置して、研究を推進しています。そのはじめは、平成12年4月設立の「時間学研究所」で、時間生物学、宇宙時間学などに特徴を有しています。この研究所の目玉は、口径32mと34mの2台のアンテナで構成される干渉計型の電波望遠鏡で、8GHzと6GHzの2周波数帯で同時に観測可能です。これは、一大学が運用する電波干渉計としては世界最大級のものです。

もう一つは、令和5年10月設立「細胞デザイン医科学研究所」で、細胞デザイン技術と国産ゲノム編集技術をコアテクノロジーとし、人と伴侶動物が健康で長生きし共生する社会の実現を目指すことを目的にしています。この研究所は、先端細胞治療研究部門、先進ゲノム編集治療研究部門、医・獣トランスレーション臨床研究部門、システム医学情報研究部門からなり、山口大学が大いに力を入れている研究所です。

3. 価値創造の源泉となる学術的基礎研究の推進

基礎研究のところで、積極的にプロジェクトを形成して推進していきます。

4. 優れた研究成果を多く生み出すための研究基盤の整備・充実

文部科学省「コアファシリティ構築支援プログラム」による機器共有化ということで、他大学も含めて機器の重複をなくして、効率よく機器を使用することを目指しています。

5. 持続可能な社会への貢献

山口大学グリーン社会推進研究会を立ち上げ、現在200名の会員で色々な議論をしています。

.....

第2回講座Ⅱ「ワイン造っています」

講師：幸西 義治氏(丘の上幸西ワイナリー 代表・電子56年卒)

開催日：令和5年10月14日

近年、日本でも北海道から沖縄まで多くの



ワイナリーができ、国際的にも高い評価のワインが造られてきました。私が就職(セイコーエプソン社)して移り住んだ長野県塩尻市もワイン銘醸地として知られ、アラ還暦から畑違いの小さなワイナリー(市14番目)を夫婦2人で始めました。

ワインブームで若い方、脱サラの方、都会からの方など6次産業のワイナリー起業を目指す方が増えていますが、市場はまだ大きいとはいえません。自然、場所、設備、資金、

技術、売り先、酒造免許など沢山の壁と楽しみ？があります。ブドウ・ワイン、ワイナリー起業の道のり、ワイナリーの1年など現場での経験や学んだことをご紹介します。

平成21年、妻から塩尻観光ワインガイドになることを勧められ、地元の風土やワインについて学ぶ養成講座を1年間受講し、試験を経て塩尻市観光協会から観光ワインガイドに認定されました。その後、平成26年～30年、塩尻ワイン大学1期生（塩尻市農林課）、平成26年ワイン生産アカデミー2期生（長野県農政部）等を経て、平成27年に57才で選択定年してワインの木を植えはじめました。そして、令和元年6月に果実酒製造免許（塩尻市ワイン特区免許）を交付され、9月にワイナリーオープンに漕ぎつけました。

雨が少ない、日照時間が長い、良い土壌、昼夜の温度差が大きい等、塩尻市はぶどうの栽培に適した条件が揃っています。塩尻市のワインの歴史は古く、1910年に最初のワイナリーが誕生しており、現在、塩尻市内では16場（15社、1高校）でワインが醸造され、その出荷量8,063Kℓ・出荷額48億円は長野県内第1位で、塩尻が約7割を占めています。現在、私の圃場は約50a、標高750mにあり、1,000本強を垣根作りで栽培しています。

ワイナリー起業の最大の関門は果実酒製造販売のライセンス取得です。ワイナリー設立に向けて計画を立て、開業までの検討事項として、投資計画と資金調達、キャッシュフローはまず必須ですが、それに加えて、果実酒製造技術、原料（ぶどう）、製造見込みの読み、酒類、場所、製造設備、建物、ラベル等々、販売先（酒類取引承諾書）、拡販方法、ホームページ等があります。そして果実酒製造販売のライセンス（ワイン特区免許）に漕ぎつけますが、取得後少なくとも3年は仮免で品質と帳簿の厳しい審査が要求されます。「ワ

イン特区」のライセンスの条件は塩尻産ブドウを使って塩尻市内で醸造すること、2,000ℓ以上/年（特区外の場合は6,000ℓ以上）醸造することとなっています。

実際のワイン造りを年の初めから追ってみます。まず、1月から3月はブドウの木の休眠期で、剪定、わら巻きです。4月になると発芽、6月には開花、9月には着色して10月にブドウを収穫して、ワインの仕込みが始まります。そして、ブドウの木は11月に落葉して休眠期になります。この間、獣、鳥、虫、病気、気候、の敵と呼ぶべき外部要因との戦いです。白ワイン、赤ワインの製造はいくつかの工程をたどるわけですが、それぞれで帳簿（13個）をつけなくてはなりません。また、年度末には製成、移出の数量の申告等の作業もあり、さらには市観光の協力、宣伝活動等も重要な仕事で、ワイン造りの作業以外に多くの時間がとられ、忙しい毎日が続きます。

私が初めて定植したのは、片丘地区でほとんどぶどう（果樹も）圃場がなかったところでした。今後も丁寧に地道にワインを造り続け、いつか片丘らしさが浮かび上がってくるようなワインをめざしています。ワイン造りは年に1回ですのでもと何回できるかわからないことを考えると、1回ずつが貴重なことです。会社勤めの頃は、製品の品質の均一を求められ、古いものは売れなくなっていくものでしたが、ワインは畑によって、また年によってちがいます。それを皆様楽しんでいただけるようになりたいと思っています。



ご挨拶

工学部だより

山口大学工学部長（電気電子工学科教授）山田 陽一



常盤工業会会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。平素より工学部の活動に對しまして格別のご理解と多大なご支援を賜り、心より御礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症の位置付けが2023年5月より5類感染症に移行したこともあり、キャンパス内での諸活動は、ほぼコロナ禍前の状態に戻りつつあります。

さて、内閣官房の下に設置された教育未来創造会議において、「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）」が取りまとめられました（2022年5月）。この第一次提言においては、我が国が置かれている現状や人材育成を取り巻く課題を踏まえ、基本理念、在りたい社会像、目指したい人材育成の在り方を整理した上で、① 未来を支える人材を育む大学等の機能強化、② 新たな時代に対応する学びの支援の充実、③ 学び直し（リカレント教育）を促進するための環境整備、に焦点を当てて、今後取り組むべき具体的方策が提示されています。

その中で、人材育成を取り巻く課題としては、(1) 高等教育の発展と少子化の進行、(2) デジタル人材の不足、(3) グリーン人材の不足、(4) 高等学校段階の理系離れ、(5) 諸外国に比べて低い理工系の入学者、(6) 諸外国に比べ少ない修士・博士号の取得者、(7) 世帯収入が少ないほど低い大学進学希望者、(8) 諸外国に比べて低調な人材投資・自己啓発、(9) 進まないリカレント教育、が挙げられて

います。特に、デジタル人材の不足に関しては、国際経営開発研究所の試算によると、日本のデジタル競争力は28位（米国1位、韓国12位、英国14位、中国15位、ドイツ18位、フランス24位）となっており、先進諸国の中では低くなっています。また、IT人材需給に関する試算では、人材のスキル転換が停滞した場合、2030年には先端IT人材が54.5万人不足するという調査結果も報告されています。グリーン人材の不足に関しても、脱炭素化の推進に当たり、外部人材の知見を必要とする自治体が2050カーボンニュートラル表明自治体のうち、約9割を占めており、全体的な方針や計画の検討に際して外部人材を必要とした自治体も全体の3分の2にのぼっていると指摘されています。

一方、目指したい人材育成の在り方については、未来を支える人材像を「好きなことを追及して高い専門性や技術力を身につけ、自分自身で課題を設定して、考えを深く掘り下げ、多様な人とコミュニケーションをとりながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていくことのできる人材」と指摘しています。その上で、今後、特に重視する人材育成の視点として、(1) 予測不可能な時代に必要な文理の壁を超えた普遍的知識・能力を備えた人材育成、(2) デジタル、人工知能、グリーン（脱炭素化など）、農業、観光など科学技術や地域振興の成長分野をけん引する高度専門人材の育成、(3) 現在女子学生の割合が特に少ない理工系などの分野の学問を専攻する女性の増加、(4) 高い付加価値を生み出す修士・博士人材の増加、(5) 全ての子供が努力する意思があれば学ぶことの

できる環境整備、(6) 一生涯、何度でも学び続ける意識、学びのモチベーションの涵養(かんよう)、(7) 年齢、性別、地域等にかかわらず誰もが学び活躍できる環境整備、(8) 幼児期・義務教育段階から企業内までを通じた人材育成・教育への投資の強化、が挙げられています。

上記を踏まえ、今後取り組むべき具体的方策の中で、①未来を支える人材を育む大学等の機能強化に関しては、(1) 進学者のニーズ等も踏まえた成長分野への大学等再編促進・産学官連携強化として、デジタル・グリーン等の成長分野への再編・統合・拡充を促進する仕組み構築、大学の教育プログラム策定等における企業・地方公共団体の参画促進、地方公共団体と高等教育機関の連携強化促進等が提示されています。また、(2) 学部・大学院を通じた文理横断教育の推進と卒業後の人材受け入れ強化として、STEAM教育の強化、文理横断による総合知創出、「出口での質保証」の強化、大学院教育の強化、博士課程学生向けジョブ型研究インターンシップの検証、大学等の技術シーズを活かした産学での博士課程学生の育成、企業や官公庁における博士人材の採用・任用強化等が提示されています。(3) 理工系や農学系の分野をはじめとした女性の活躍促進としては、女性活躍プログラムの強化、女子高校生の理系選択者の増加に向けた取組の推進等が提示されています。上記以外にも、(4) グローバル人材の育成・活躍促進、(5) デジタル技術を駆使したハイブリッド型教育への転換、(6) 大学法人のガバナンス強化、(7) 知識と知恵を得る初等中等教育の充実が提示されています。

また、②新たな時代に対応する学びの支援の充実に関しては、(1) 学部段階の給付型奨学金と授業料減免の中間層への拡大、(2) ライフイベントに応じた柔軟な返還(出世払い)の仕組みの創設、(3) 官民共同修学支援プロ

グラムの創設、(4) 博士課程学生に対する支援の充実、(5) 地方公共団体や企業による奨学金の返還支援、(6) 入学料等の入学前の負担軽減、(7) 早期から幅広い情報提供が提示されています。

さらに、③学び直し(リカレント教育)を促進するための環境整備に関しては、(1) 学び直し成果の適切な評価、(2) 学ぶ意欲がある人への支援の充実や環境整備、(3) 女性の学び直しの支援、(4) 企業・教育機関・地方公共団体等の連携による体制整備が提示されています。

上述した教育未来創造会議の第一次提言を受けて、文部科学省は2022年度第2次補正予算で3,002億円の基金を造成し、「成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金による継続的支援」をスタートしました。これは、デジタル人材不足、グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成に向けて、意欲ある大学・高専が成長分野への学部転換等の改革に予見可能性をもって踏み切れるよう、機動的かつ継続的な支援を行うものです。学部再編等による特定成長分野(デジタル・グリーン等)への転換等支援(支援1)と高度情報専門人材の確保に向けた機能強化支援(支援2)があり、国立大学が支援対象となっているのは支援2です。本学においても、今まで以上に高度情報専門人材を継続的に多数輩出することができる体制を整備するために、工学部知能情報工学科を中心に上記支援事業への申請の準備を進めているところです。

今後とも、工学部の活動に対してご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。常盤工業会会員の皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

(2023年10月 常盤キャンパスにて)

新任教員紹介

山田 悠二

社会建設工学科講師

(R5.4.1 赴任)



令和5年4月1日付で社会建設工学科の講師として着任しました山田悠二（やまだ ゆうじ）と申します。出身は福岡県で、2017年3月に徳島大学大学院先端技術科学教育部で博士（工学）の学位を取得しました。学位取得後は、高知工業高等専門学校ソーシャルデザイン工学科で特命助教（2017年4月－2018年3月）、立命館大学理工学部環境都市工学科で特任助教（2018年4月－2019年3月）、福岡大学工学部社会デザイン工学科で助教（2019年4月－2023年3月）として勤務しました。そしてこの度、ご縁があって山口大学工学部に奉職させていただくことになりました。

私の専門はコンクリート工学で、コンクリートの施工に関する研究、コンクリート構造物のメンテナンスに関する研究、高機能型コンクリートの開発の3つを柱にテーマを設定して研究に取り組んでいます。最近取り組んでいる内容として、コンクリートの施工に関するものでは、建設用3Dプリンティング技術の社会実装に向け、建設用3Dプリンティングに用いる材料や工法の開発を行っております。建設業においては、2024年問題として取り沙汰されているように、高齢化や労働人口の減少に伴う人材不足による長時間労働が常態化しています。このような問題に対し、建設用3Dプリンティングの本格的な

社会実装により、省人化や工期短縮を図ることが期待されています。

コンクリート構造物のメンテナンスに関するものでは、透気試験や打音法といった簡易かつ非破壊で実施可能な点検手法に関するものや、高機能型補修材の開発などを行っております。また、社会貢献活動として工学部附属社会基盤マネジメント教育研究センターの併任教員として、メンテナンスエキスパート（ME）山口養成講座の運営にも携わり、リカレント教育にも務めています。インフラの耐用年数は一般に50年とされますが、建設後50年を超える構造物が増えてきており、これらを適切に維持管理・更新していくことが求められています。その一方で技術者不足や予算確保が難しいという現状にあることから、技術者養成や点検・補修の支援技術の高度化は非常に重要です。

高機能型コンクリートの開発に関わるものとしては、従来のコンクリートよりもセメント使用量を大幅に低減させるとともにCO₂の吸着を増大させ、さらに高い耐久性を得ることができる、低炭素型高耐久コンクリートの開発に取り組んでおります。このテーマはカーボンニュートラルと構造物の長寿命化に資するものであると考えております。

山口大学工学部はコンクリート工学に関する研究・教育の発展に大きく貢献された多くの偉大な先生方が名を連ねてきております。このような先生方に恥じぬよう、研究・教育に懸命に取り組んで参ります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

麹菌の産生する界面活性タンパク質 ハイドロフォビンの研究

応用化学科助教 寺内 裕貴



応用化学科は化学系の基幹科目である物理化学、有機化学、無機化学、化学工学、そして生物化学を中心に教育を行っています。私はその中でも主に生物化学、とりわけ糸状菌（カビ）について研究しています。

カビ、というと皆さんどのようなイメージを持つでしょうか？大半の方は腐ったミカンなどの食品についた青カビなどの、育つてくると嫌なもの、というイメージがあるのではないのでしょうか。あるいは日本酒や醤油、味噌など和食には欠かせない発酵食品を作るのに必須なカビである麹菌など、よい面を思い浮かべる方もいらっしゃると思います。カビなどの微生物が関わる活動のうち、人間に役立つものを醗酵、役に立たず不利益なものを腐敗と呼んでいます。カビがどちらの活動をやるにせよ、まずはカビが栄養とする物質に接着するプロセスが必要です。このプロセスにはカビが特異的に生産する分泌性低分子

量界面活性蛋白質「ハイドロフォビン」が関与しています。ハイドロフォビンは、分泌後、細胞壁や胞子表面に吸着・局在し、菌糸や胞子の細胞壁が栄養基質に吸着する際に糊のような役割を果たします。また、ハイドロフォビンは吸着・被覆した固体表面の湿潤性を逆転させることも報告されています。この機能により菌糸や分生子表面の細胞壁を親水性から疎水性に改質し、気中菌糸の形成への寄与や、分生子や胞子の空気中への分散に寄与する機能があることが分かっています（図1）。さらに、ハイドロフォビンは固体表面や菌糸、分生子、胞子表面において棒状構造を自己組織化し化学的に非常に強固な薄膜を形成することが報告されています。

私は麹菌を用いてこのハイドロフォビンのように薄膜を形成するのかを界面化学的に解析しました。具体的には、まず、麹菌が産生するハイドロフォビンの中でも最も生産量の多いハイドロフォビンである RolA を精製しました。精製した RolA をラングミュアー・プロジェクト法という方法で気液界面に RolA の薄膜を形成させ、それをシリコ

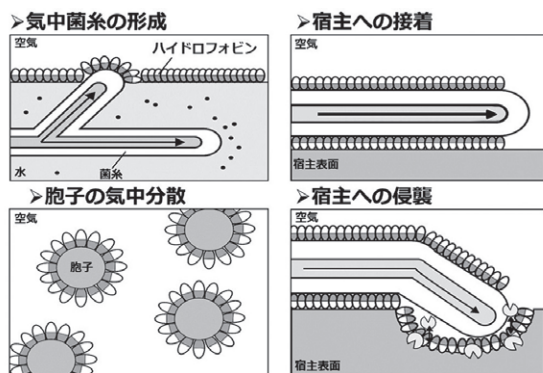


図1 ハイドロフォビンの生物学的機能

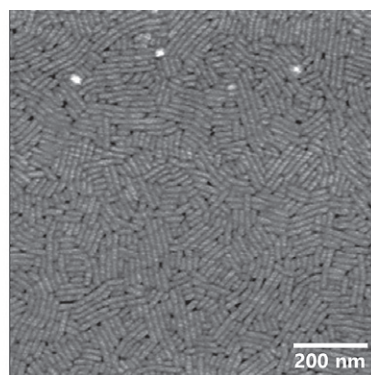


図2 ハイドロフォビンの自己組織化薄膜

ンに転写後、RolA 薄膜を観察しました。その結果、RolA の自己組織化構造は低 pH 下では非常に密な棒状構造を示す（図2）一方で、高 pH 下では自己組織化せず、化学的に非常に脆弱な薄膜を形成しました。このことから、RolA の自己組織化には RolA 同士のイオンの相互作用が必要であることがわかりました。

また、RolA は麹菌を生分解性プラスチック上で生育させたときに盛んに分泌されます。この時、RolA とともに生分解性プラスチック分解酵素クチナーゼ CutL1 も同時に分泌されます。この2つのタンパク質の関係を調べてみると、RolA が生分解性プラスチック表面に接着した後、RolA と CutL1 がイオンの相互作用によって引き合い、CutL1 が生分解性プラスチック表面に誘導、濃縮される

ことによって生分解性プラスチック分解が促進されることがわかりました。これを利用した生分解性プラスチックリサイクルシステムの構築を目指し、この相互作用機構をさらに詳しく調べています。

以上のようにハイドロフォビンは多彩な機能を持ち、産業的な応用にも非常に期待が持てると考えています。

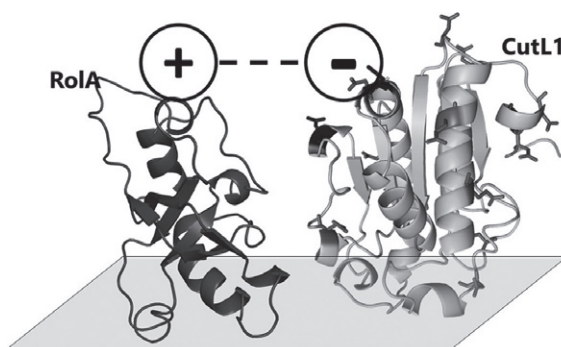


図3 RolA とクチナーゼの相互作用

山口大学基金にご協力をお願いいたします

○ご寄附の単位

個人	1口	5,000円～
法人・企業・団体	1口	10,000円～

○応募の方法

同封の払込取扱票（兼寄付申込書）により、取扱金融機関からお振込みください。
（すでに寄付をいただいている方にも同封されております。ご了承ください。）

○問合せ先

山口大学基金事務局／〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1
TEL：083-933-5622 FAX：083-933-5624

工学部オープンキャンパス2023報告

工学部副学部長（感性デザイン工学科教授） 鶴 心治



常盤工業会会員の皆様には、工学部の教育研究におきまして多大なるご支援をいただいておりますこと、厚くお礼申し上げます。

2022年4月より副学部長を拝命しております鶴（いかるか）心治と申します。本稿では、工学部オープンキャンパス実行委員長として、2023年8月5日（土）に開催されましたオープンキャンパスにつきまして、ご報告いたします。

2023年度のオープンキャンパスは、前年と同様、来場型とオンライン型のハイブリッド形式で行いました。テーマは、「覗いてみよう未来のキャンパスライフ」です。各学科は、学科の概要説明に加えて、興味深いイベントを多数準備しました。学科別のイベントのタイトルを一部紹介します。

・機械工学科

「3Dプリンターで人体モデルを作ろう」や「電子レンジでルビーを作ろう」等。

・社会建設工学科

社建炎天企画「測量大会～野生の空間感覚を研ぎ澄ませ！～」や「君は“強い土”を見抜けるか!？」等。

・応用化学科

「身近な有機・高分子材料と一緒にWBCを目指しませんか!」や「研究室訪問光る酵母で君も輝く!」等。

・電気電子工学科

「電気抵抗ゼロの超伝導現象を体験!」や「ロボットで学ぶシステム制御入門～ミッション

は倒立振り子ロボットの振り上げ安定化～」等。

・知能情報工学科

「ゲームでプログラミングをしながら、英語を勉強しよう」や「PC解体・組立ショー」等。

・感性デザイン工学科

「建築構造分野の活動・先端建築構造材料と技術・建築環境とシミュレーション」や「建築・都市デザイン学生作品展示 全国大学・高専卒業設計展示会」等。

・循環環境工学科

「SDGsとリンクする研究紹介」や「学科研究展示」等。

・工学基礎教育

「高校の知識と将来をつなぐ」等。



オープンキャンパス 2023 パンフレット表紙



受付の様子



学生作品展示



研究紹介の様子



実験の様子



メタバース体験

この他にも、工学部の共通イベントとして、FM きらら「ススメ！工学部」の公開生放送や「社会建設工学科と感性デザイン工学科で学ぶメタバース×土木・建築」、「VRでイギ

リスへ、メタバース留学体験！」等、興味深いイベントが多数行われました。もちろん入試の個別相談、学生寮や図書館の見学ツアー等、工学部のことをさらに知っていただく機会も提供されました。

当日の来場型参加者は、509人（保護者や教員等の同伴者を含めると768人）で、オンラインでの閲覧数（8/5～8/31）は158件でした。コロナ前では、1,000人を超えていましたので、まだまだおおよびませんが、2024年のオープンキャンパスでは、コロナ前の実施形態で行う予定としておりますので、多くの高校生に工学部キャンパスの実空間に来場していただき、また、オンラインも有効に活用しながら工学部のことを知っていただきたいと思います。

工学部キャンパス将来計画の要としてのラーニングラボ

感性デザイン工学科教授 岡松 道雄



1. はじめに

常盤工業会会員の皆様におかれましては、日頃より工学部の研究教育活動へのご理解とご支援を賜り心より御礼申し上げます。

2023年5月にいわゆるコロナ感染症の法的扱いは5類へと変更となりましたが、現在も学生の中に感染者が散見され、予断を許さない状況が続いています。一方で4月以来キャンパス内に学生達の姿があふれ、コロナ禍前の日常風景が戻ってきたことは、喜ばしく感じております。

2. キャンパスの屋外空間活用

コロナ禍で多くの不幸な状況があった中で、唯一「屋外空間の活用」に目が向けられたことが救いでした。奇しくもコロナ前の2019年度に、感性デザイン工学科の鶴心治教授（当時：評議員）を中心に建築・都市計画系の教員が、図書館改修（2020年度実施）を契機とするキャンパスマスタープラン（以下CMP）と屋外空間活用案をまとめました。

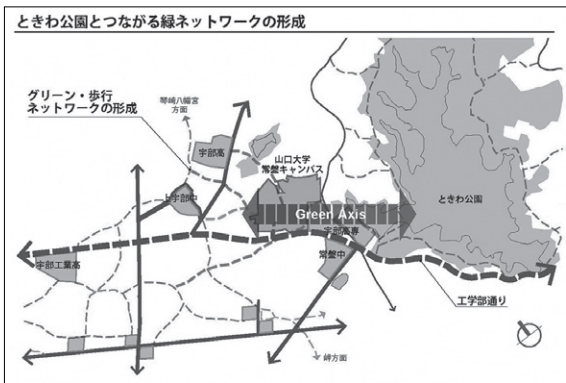


図1 常盤キャンパス緑の歩行ネットワーク概念図

その中で常盤キャンパスと宇部高専を一体的に計画し、屋外空間をネットワーク化し緑地を連続させることで、ときわ公園まで遊歩道を繋げる Green Axis コンセプトを提案しました（図1）。全国で唯一、大学が高専と隣接する立地を活かして、公道を介さずときわ公園へアプローチ可能な工学系の新しいキャンパスを提案すると共に、学生や教職員が豊かな緑を享受できる環境を目指すものです。

図2は常盤キャンパス内のオープンスペース整備方針を示すものです。現在国交省主導で、居心地がよく歩きたくなるウォークアブル（walkable）なまちづくりが推奨されていますが、当案はそれを先取りし、構内通路を単に移動のためだけではなく、街路樹やベンチ・デッキ等を組み合わせて、歩いて心地よく、時には座って談笑したくなるような滞在スペースを点在させる計画をしています。



図2 オープンスペース整備計画案

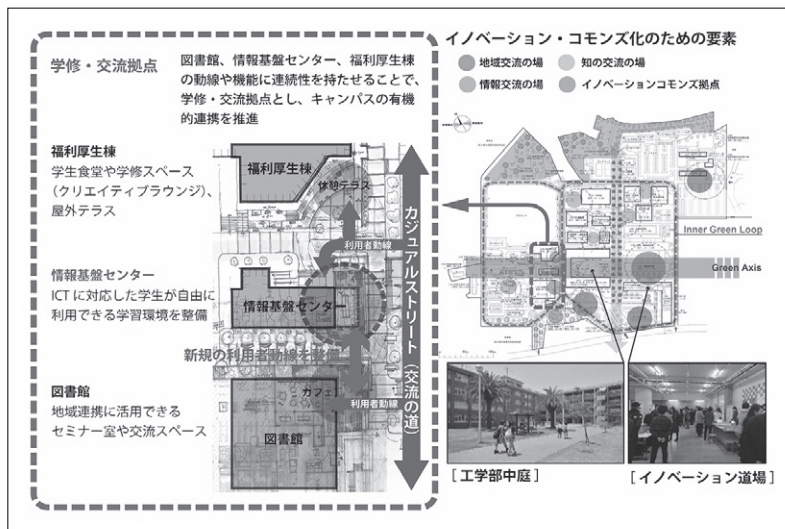


図3 常盤キャンパス全体の構想案におけるラーニングラボの位置

3. 将来計画の要としてのラーニングラボ

今年度春にオープンしたラーニングラボ（以下 L-Lab.）は既存の情報基盤センターの一部（約 100㎡弱）を改修した小さなものです。しかし、この位置は上記 CMP においてとても重要な位置を占めています。図3に常盤キャンパスにおける L-Lab. の位置を示します。学生がよく利用する福利厚生棟と図書館の間にあり、学生や教職員の交流の中心として位置付けられます。加えて前述の Green Axis の起点にあり、ときわ公園と繋がる将来計画の要となる布石のような存在です。

前工学部長の堤宏守教授と鶴教授は、この重要性を深くご理解され、L-Lab. の実現に多大なお力を注がれました。現工学部長の山田陽一教授もこのコンセプトを引き継ぎ、常盤キャンパス全体のイノベーション・コモング化に向けて、更なる工学部改革に取り組まれていることは皆様もご存知と思います。

4. 図書館・福利厚生棟との連続性と可能性

2020 年度に改修を終えた図書館と呼応するように屋外空間をウッドデッキによって連続させています。春秋のよい気候の時期には、学生や教職員の方々がデッキで寛がれる風景



図4 L-Lab.（厚生棟）



図5 L-Lab.（授業風景）

を目にして、設計者としては嬉しい限りです。一連の改修で屋外空間を連続させるだけでなく、屋内空間に大きなガラスの開口部を設け、外部と連続し屋内の活動を見せることで、通りに賑わいを溢れ出させることを意図しています（図4）。

最終的には、図3に示すように厚生棟の Area-C とも繋がり、学生の交流拠点となることを願っています。閉じがちなキャンパスの実験室や会議室、通常の授業でさえもキャンパスに開くこと（図5）で、思いがけない出会いや気づきが生まれる可能性と、その延長線上に新しい分野融合やイノベーションが起きるのではと考えています。既に L-Lab. では工学基礎教育の植村隆准教授を中心に English-Lab. が、社会建設工学科の赤松良久教授を中心とした DX-Lab. が精力的に運営されており、相互のコラボレーションが期待されます。

末尾になりましたが、本改修では情報基盤センターのスペースを工学部にご提供いただき、施設環境部には工事上ご尽力をいただきました。また、工学部会計課の久光克則課長、松原誠吾係長（当時）には大変お世話になりました。この誌面をお借りし御礼申し上げます。

「Area-C」の誕生について

工学部総務企画課総務企画係



令和5年4月、山口大学は中電技術コンサルタント(株)とのネーミングライツに関する協定を締結し、同月に常盤キャンパスにてネーミングライツ除幕式を開催いたしました。春の暖かな日差しのもと、学生や教職員が見守る中、除幕式では、中電技術コンサルタント(株)の坪井代表取締役社長、田中山口支社長、本学の谷澤学長、溝部理事（人事労務・財務施設担当）、山田工学部長による除幕が行われ、「Area-C」という名称が新たに付与された福利厚生棟1F〈ホール・ラウンジ・ピロティ〉がお披露目されました。

「Area-C」という名称の発表の後、谷澤学長からはネーミングライツ契約を実現させたことへの感謝の意が述べられ、名称が付与された福利厚生棟1階は多くの学生が使用する施設であり、PR効果が高いことから、さらなる連携を期待する旨の挨拶がありました。また、坪井代表取締役社長からは「Area-C」という名称は中電技術コンサルタント(株)の頭文字「C」を使ったもので、若手社員のアイデアから誕生したものであること、今般のネーミングライツをきっかけに、連携を強固にしていきたいとの意向が示されました。山田工学部長による謝辞で除幕式は盛会裏に終

了しました。

除幕式後、日常のキャンパスの中で、「Area-C」が学生たちの憩いの場になっていることを感じます。「Area-C」という名称は親しみやすく、学生たちの会話の中でも聞こえてくるようになり、今後ますます「Area-C」が、学生、教職員に多くの楽しい瞬間を提供してくれることを期待しています。

10月には、山口大学生生活協同組合の支援を受けて、「Area-C」のラウンジ部分がリニューアルされ、夏休みを終えて戻ってきた学生たちは大喜び。授業の合間に熱心に課題に取り組む学生、ランチタイムに友人と楽しそうに話をする学生の姿をあちらこちらで見かけるようになりました。

中電技術コンサルタント(株)とのネーミングライツ契約は、吉田キャンパスの共通教育講義棟Aの向学社ラウンジに続いて、本学では2例目となります。工学部は今後もネーミングライツの制度の周知に努め、産業界との連携を深めるとともに、教育研究環境の充実を進め、学生たちの満足度を高めることに貢献していきたいと思っております。常盤工業会会員の皆さまにおかれましても、是非本制度を知っていただき、御協力を賜りたく存じます。どうぞよろしく願いいたします。

◆ 山口大学ネーミングライツの詳細について
下記QRコードからアクセスください↓

山口大学ネーミング
ライツパートナー
募集について



常盤工業会会館施設のご案内

常盤工業会会館には、貸室（会議室・和室）および宿泊施設があります。
工学部の正門の向かいにありますので、工学部近辺に御用の際、非常に便利です。
施設の概要と料金は以下のとおりです。どうぞご利用ください。

貸 室

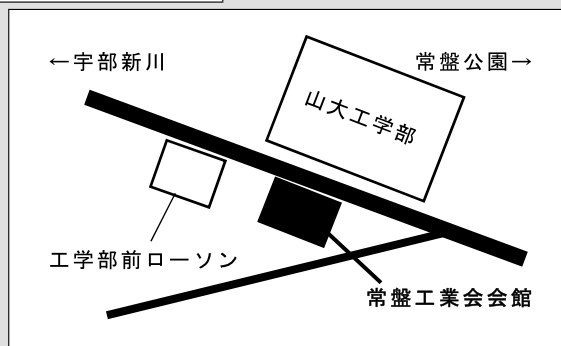
室 名	広 さ	収 容	使用時間／料金（円）		
			9:00～12:00	12:00～17:00	17:00～22:00
会議室 A	約40㎡	24名	1,000	1,500	2,000
会議室 B	115	90名	2,000	3,000	4,000
会議室 AB	155	120名	3,000	4,500	6,000
会議室 E	66	25名	1,500	2,000	3,000
和 室 C	20	8帖	1,000	1,500	2,000
和 室 CD	40	16帖	1,500	2,000	3,000

宿泊施設（洋室シングルルーム）

会費納入者	1泊 3,000円	15:00～翌10:00
そ の 他	1泊 4,000円	

【お申込み先】

一般社団法人 常盤工業会 事務局
TEL：(0836) 32-7599
FAX：(0836) 22-7285
E-mail：tokiwa@bc.wakwak.com



事務局からのお願い

帰省先に会誌が届いている卒業生のご家族の皆様方へ

会誌を直接ご本人にお届けして読んでいただきたいと思っております。また現住所所在地にある地域同窓会からの連絡もありますので、ご子息ご息女の現住所をご連絡いただきますようお願い申し上げます。

学生会員の皆様へ

帰省先に異動があった際には、常盤工業会事務局までご一報をお願いいたします。

山口大学における研究支援体制のご紹介

山口大学大学研究推進機構 産学公連携・研究推進センター

山口大学では、産学公連携・研究推進センター、先進科学・イノベーション研究センター、知的財産センターおよび総合科学実験センターからなる「大学研究推進機構」を設置し、民間企業および公的機関との産学連携活動、大学発ベンチャーの創業支援等を推進しています。大学研究推進機構の目的、並びに本機構と山口大学、産業界との関連を以下に示します。

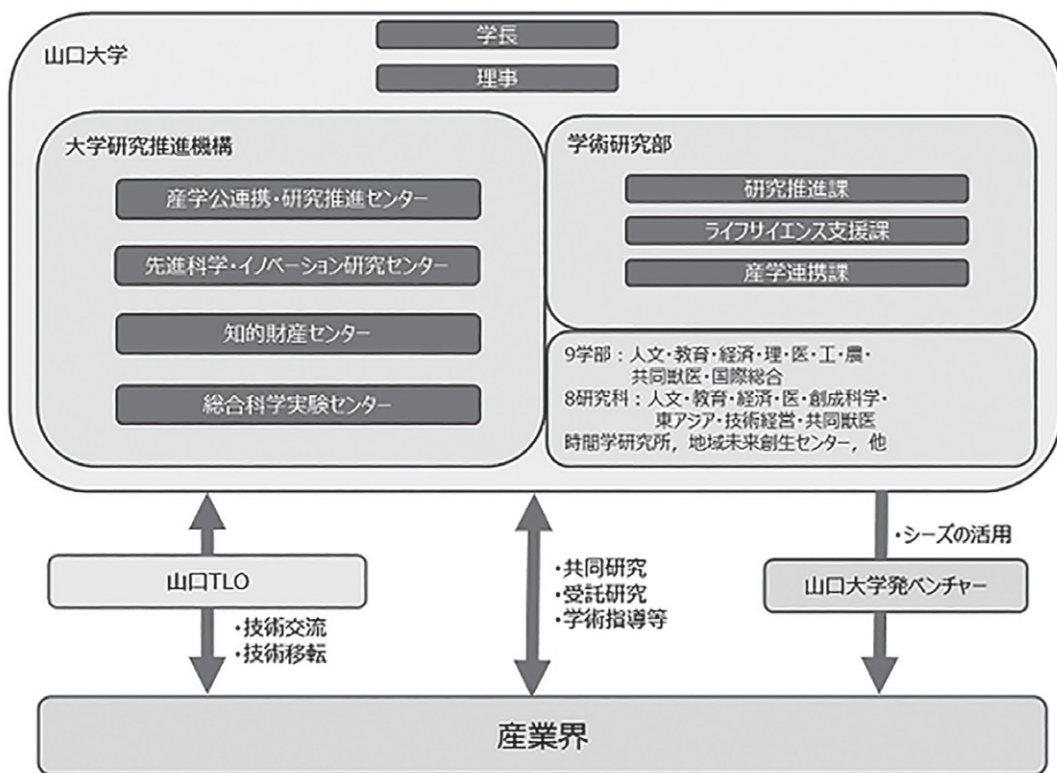
1. 教員の研究成果を知的財産権化し、社会で広く活用されることを通じて大学の社会貢献を推進できるように、知的創造サイクルの確立に努めています。また、本学が保有する特許を、有限会社山口ティー・エル・オーを通じて企業等にライセンス化し、ライセン

ス収入を得ています。

2. 知的財産人材の養成のために、平成25年度から、全学必修科目である共通教育科目において、「知的財産教育科目」を開講し、特徴ある実践的知的財産教育を実施しています。これにより、学内の知的財産インフラを充実させるとともに、社会全体の知的財産基盤の強化を推進しています。

3. 研究活動の活性化のため、産学公連携・研究推進センターのURA（リサーチ・アドミニストレーター）が学内の教員と連携し、研究のマッチングから研究成果の社会実装までを一貫して支援する体制を整えています。

山口大学では、民間企業等からの技術相談を受け付けています。自社内だけでは解決が難しい技術的課題など、お気軽にご相談下さい。



山口大学グリーン社会推進研究会 シーズ・ニーズ交流会2023を 開催しました。

山口大学は地域の基幹総合大学として、学内の叡智を結集し、人文・社会科学から自然科学までの「総合知」により、グリーン社会の実現を目指した「グリーン社会推進研究会」を設置しております。本研究会では、大学の研究シーズと企業・自治体のニーズ等に関して情報や意見の交換等を行い、そこから創出された産学公連携による共同研究等により、従来の脱炭素・循環技術などの諸課題をブレイクスルーした革新的な技術とともに新しいグリーン地域社会システムを生み出すことを目標としています。

この度、研究会員のニーズ・シーズの展示による会員相互の交流を目的とし、令和5年10月16日（月）に、「山口大学グリーン社会推進研究会シーズ・ニーズ交流会 2023」を開催いたしました。交流会当日は、参加者80名以上、ポスター出展26研究課題と多くの方々のご出席・ご協力をいただき、ポスターセッション等、産官学様々の立場で活発な交流が行われました。本交流会をきっかけとして、グリーン社会実現に向けた企業、自治体、産学支援機関及び本学とのネットワーク形成が更に加速することが期待されます。

本研究会に興味を持たれましたら、是非会員として入会していただきますようお願いいたします。

- ◆ グリーン社会推進研究会 HP : https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~yu_green/
- ◆ 交流会の様子（令和5年10月16日（月）開催）



こちらからも
アクセスできます



留学生として日本に来て

博士前期課程電気電子情報系専攻R5年修了 LIU XIAOXI



こんにちは。創成科学研究科博士前期課程電気電子情報系専攻を2023年9月に修了したLIU XIAOXIと申します。

中国での学部生時代から日本語の学習を始めましたが、渡日した当時は挨拶程度しか言えず、他人と会話する際はとても緊張しました。あれから2年半以上経った現在は、だいぶ上達し、他の学生や先生ともコミュニケーションがとれるようになりました。

留学生になった主な理由は、中国国内の競争が激しかったことと、自身が日本の文化に魅力を感じていたためです。また、新しい環境で新しい知識を学ぶことができる点も理由の一つです。加えて、先進国の中で日本への留学は経済的にも可能な範囲内であったため、日本への留学を決めました。さらに、中国語を話す人にとっては、日本語は比較的学習しやすい言語であり、特に漢字の書き方と読み方は短期間で習得できます。とはいえ、漢字の書き方と意味が中国とは異なる場合があります。辞書で調べることでこの問題は解決できます。

私は研究生の頃から、同級生と一緒に研究室の研究活動（研究ゼミ）に参加し始め、研究室のメンバーとの交流や勉強を通じて、徐々に研究に興味を持ち始めました。研究ゼミの時以外にも、毎日文献を読んだり、所属している河村研究室で利用できるudemy（オンライン学習プラットフォーム）の授業を見たりして知識や技術の習得に邁進し、わから

ないことは先輩に聞いたりしました。その後は博士前期課程に進むことができ、もっと多くのことを勉強しようと毎日研究室に通い、文献を読んだり実験をして忙しくも充実した時間を過ごしました。研究室の学生たちも一生懸命で、彼らと共に研究、勉強、成長することができてとても幸せです。

宇部での学生生活で少し苦勞したのは、工学部は市内でも海拔が高いところにあるため、自転車通学や市内移動が大変だったことです。冬は寒さと強風、夏は蒸し暑さとの闘いで毎日の登下校はとても疲れしました。しかし、研究室ではみんな一生懸命研究しており、自分を高める努力をしていると考え、天候に負けていられない！と思い自分を奮い立たせて通学しました。みんなと同じように学会や研究活動に積極的に参加して、自分の学生生活をもっと充実させるべきだと思いました。

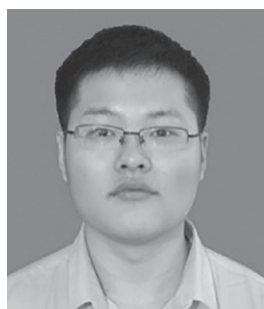
山口大学に入学して宇部市で生活したことで、山口県・宇部市は私にとって第二の故郷になりました。就職先は少し遠くになりましたが、今後も山口大学と宇部市とは関係を持ち続けたいと思っています。ありがとうございました。



修士論文審査会での発表風景

留学生として日本に来て

博士前期課程電気電子情報系専攻R5年修了 BAI YU



はじめまして、こんにちは。創成科学研究科電気電子情報系専攻博士前期課程を2023年9月に修了したBAI YUと申します。コロナ禍のため長い間渡日できませんでしたが、2020年の冬によく瀋陽からのフライトで中国を離れ、日本に入国することができました。そしてこの見知らぬ国で、3年間の留学生生活を始めることになりました。

山口大学工学部がある山口県宇部市は、私の感覚では小さな町ですが、周りは山水に囲まれており、水辺が美しい場所です。宇部の気候は、中国上海市一帯の気候に似ており、冬は長くなく4月まで低温ですが、他の季節の気候は快適です。大学の研究室にはエアコンが備え付けられており、四季を通じて利用できるので、研究を進めるには非常に快適な環境でした。

在学中は、近くのマクドナルドでアルバイトをしました。キッチン担当で、週に20時間働いて、1年間勤めました。このバイトを通じて多くの日本人の方々と交流することができ、異なる文化や価値観の違いについて知ることができました。おかげで日本語能力も急速に向上したように思います。時間に余裕があればこのようなところでアルバイトをすることもいいのではと思います。当時のアルバイトメンバーは、ほとんどが日本の高校生でしたが、彼らの家族がアルバイトを許可し、応援していることに大変驚きました。私にとっては初めて異なる価値観を体感した瞬間

でした。

海外留学は知識を追求するだけでなく、多様な世界を体験する場でもあります。留学中は自分の視野を広げ、異なる文化を理解し、自分の総合能力を高めることができる等多くのことを収穫することができました。さらに気の合う友人たちと集い、共に視野を広げ成長することができます。また、留学生間では、海外留学の経験を共有して、留学した感想や得た知識を語り合うこともできます。

私が留学中に得たもののうち3つをご紹介します。1つ目は視野の拡大です。海外留学は自分の視野と思考をより広くし、海外の異なる文化と雰囲気の下で、異なる角度から問題を見て、自身にとってより魅力的な答えを探することができます。2つ目は、総合的な能力の向上です。勉強のほかにも多くのことを生活から体験することができ、自分の総合能力を高め、社会実践能力、コミュニケーション能力を高めることができます。3つ目は、友情の育みです。志を共にする友人たちと知り合うことで、かけがえのない経験を共有し、アイデアを引き出し、共に成長することができるということです。それこそが、海外留学する最大の魅力だと思います。



河村研究室での送別会風景

宇部市うべスタートアップ “ビジネスプランコンテスト2022” 最優秀賞受賞に際して

博士前期課程電気電子情報系専攻1年 横山 駿



2023年3月11日に
行われたうべスタート
アップビジネスプラン
コンテストにチーム
Hoshikaとして国際総
合科学部に所属する山
中彩耶可さんと参加

し、最優秀賞をいただきました。

本イベントでは、発表までの間に全3回にわたるスタートアッププログラムに参加し、ビジネスプランのブラッシュアップを行いました。チーム Hoshika は、フリマアプリにおいて求めている商品や条件に合った商品がないという問題を解決すべく、「欲しいを可視化する」をコンセプトにサービスを提案しました。

【Hoshika の原点】

私が Hoshika として活動を始めた原点は、学部4年前期に先取り履修として受講した創成デザイン工学特論及び演習です。この講義は、Yahoo Japan が学生ハッカソンイベントとして行っている HACK U に参加できるものでした。講義の初めに5名でチームを組み、Yahoo 社員の方からアイデアの考え方に関する講座やコーディング講座を受けながら実際に1つのサービスの提案、プログラミングによるデモ作成、発表までを行いました。私のチームでは、身近な生活の中で課題となっていることをブレインストーミング方式で挙げ、そこから解決策を考えていくトップダウン型で取り組みました。身近な課題を考えていく中で、フリマアプリを使う際になかなか



うべスタートアップ会場での記念写真

目的の商品にたどり着かないことや、商品があっても金額や商品状態の条件が合わないことがあるという課題にたどり着きました。この問題がなぜ起こっているのかについて考えていくと、現在主流となっているフリマアプリの売り手が商品を提示し、買い手が欲しいものを探すという現実の購買関係を模倣し、ECに落とし込んでいることが原因なのではないかと考えました。そこで私たちは、買い手が欲しいものを可視化し、売り手がそこに売りに来るという従来とは逆のビジネスモデルを提案しました。また「欲しいものを可視化」するサービスということが由来し、チーム名・サービス名を Hoshika としました。

【ビジネスプランコンテスト参加のきっかけ】

結果として、チーム Hoshika は Hack U で賞を取ることはできませんでした。しかし、Yahoo 社員の方々からのフィードバックとしてビジネスプランがとても魅力的であり、伸び代があると評価をいただきました。この結果に対して、悔しい思いと諦めたくないとい

う気持ちがありました。そこに授業の担当教員からビジネスプランコンテストへ申込み、1次審査を通過したことの報告を受けたことが参加のきっかけでした。私個人としては、今まで経験のないビジネスの場に挑戦したいという気持ちもあり、参加の意思を固めていました。しかし、卒業論文の時期が近かったことと予期せぬ機会だったこともあり、チームのメンバー全員での参加はできませんでした。それでもチームの中で、やり遂げたいという同じ意思を持った山中さんと2人で参加することを決めました。

【発表までの道のり】

まずはHoshikaのビジネスプランをブラッシュアップすべく、全3回のスタートアッププログラムに参加しました。このプログラムではまず、どんな世界を実現したいのか、提供したい価値は何かという部分から見直しました。その後、ターゲットとする層、市場規模の把握、見込める利益を確認していきました。漠然と「このサービスで起業したい」、「こんな世界を実現したい」という思いだけではなく、数値的な根拠を示すことでプランの価値が増すのだとわかりました。他にもスタートアップをする上で必要な知識を1回の講義につき2～4時間かけて学ぶことができ、充実した時間を過ごせたと感じています。その中でHoshikaのプランに活かせるものはすぐに時間をとり、取り入れました。すぐに取り組むことが、卒業論文の時期で時間がない中でもプランの質を高めることができた要因の一つだと考えています。今回のブラッシュアップを行う過程で特に世の中に散らばっている数値的なデータを集める大変さを実感しました。しかし、人々の問題解決につながる新しいアイデアがより現実化に近づいていることにやりがいを感じる事ができ、やり遂げることができました。



Hoshika発表

【発表を通して】

発表当日は、一般部門と学生部門の参加者と審査員の方々、また市や新聞記者の方々が集い、その中での発表となりました。結果として私たちのプランは最優秀賞を受賞しました。特にアイデア面を高く評価していただいた印象がありました。その要因には、スライドの簡潔さ、発表時の伝え方、数字としての根拠の3つでアイデア面を支えることができたからだと感じています。また、全体を通して積極的に活動を行ってくれたメンバーの山中さんのおかげだと感じました。

【将来の展望】

今回、他の参加者のプラン内容を聞く中で、AI、IoT、クラウド、メタバースなどのIT技術を使用しているプランが多く、需要が高まっていることを再確認できました。それと同時にITを必要とする企業に対して適切なシステムや業務自動化を提案していくSIerやITコンサルタントの職からビジネスを支えていきたいと感じました。また、本イベントには年齢を問わず幅広い年代の方が参加しており、サービスや商品の実現をしたいという共通の目的を持ち、真剣に取り組んでいました。私もそのように、何か新しいこと、真剣に自分がやりたいことは年齢を気にせず、これからも挑戦していきたいと思っています。

コロナ禍における学生生活と サークル活動(留学生サポーター)のこと

知能情報工学科4年 江口 和駿



[導入]

こんにちは、はじめまして。山口大学工学部知能情報工学科4年の江口と申します。留学生サポーターの常盤班長を務めています。

2年生の皆さんは吉田から引っ越してきて、工学部の生活にはもう慣れた頃でしょうか？

[2020年入学者の試練]

2020年に入学した私たちの世代は、新型コロナウイルスの流行が入学前から始まり、その影響で部活動紹介はもちろん同じ学科の人との交流会といった対面行事が全てなくなった絶望的な年でした。講義も全てオンラインやオンデマンドになりました。この状況の中で、私にとって一番大変だったのは、周囲との人間関係を築かなければならないことでした。大学入学前には、こんな状況になるなんて考えてもいなかったため、学食のミールプランの3食プランに入りました。そのため、毎日学食のために大学へ通う日々が続きました。しかし、これが新たなつながりを築くきっかけとなりました。当時は、必死に友達作りに励み、SNSや学食のミールプランを利用している同じ学科の同級生と友達になりました。それまで一人で心細かったため、すごくうれしかったです。そして半年後、新型コロナウイルスの蔓延が少し落ち着いたあたりで色々な部活動やサークルがようやく勧誘活動を始めました。

[留学生サポーターに入ったきっかけ]

私自身、幼少期から英会話教室に通い、英語に触れる機会がたくさんありました。そのため、中学や高校時代には英語に関連するボランティア活動に参加しました。留学の機会には恵まれず、私の当初の予定では、大学へ入学して落ち着いたころの夏休みあたりに留学することを考えていました。しかし残念ながら、新型コロナウイルスの影響で留学計画が立ち行かなくなり、留学を諦めることになりました。

そこで代わりに、様々な国から本学に来ている留学生と友達になれば、留学生活の雰囲気味わえるのではないかと考えていた中で、「留学生サポーター」というボランティア団体に巡り合いました。この機会を逃すわけにはいかないと感じ、入部しました。その結果、同級生と共に、先輩たちともコネクションを築くことができ、ついには同じ学科の先輩(常盤キャンパスに在籍)とも知り合うことができました。さらに、留学生と頻繁に交流する機会が増え、日常では触れないアジア圏やヨーロッパ圏の言語に触れる機会も持つことができました。最近ではアフリカからの留学生が増え、本当に多様な国籍の人々と繋がることができ、感謝しています。



[留学生サポーターについて]

さて、ここから本題に入りましょう。「留学生サポーター」。この名前を聞いたことがある工学部の学生はいらっしゃるでしょうか？留学生サポーターは、山口大学の公認ボランティア団体で、留学生のためにイベントを開催したり、生活をサポートしたりする活動を行っています。イベント前に貼るポスターを見てくださる方なら、その名前やロゴを目にしたことがあるかもしれません。

最近では、主要なメンバーが4年生となり、卒論で忙しいことから、なかなか活動できていませんが、少しずつでもイベントを開催できたらいいなと思っています。



留学生サポーターの主な目的は、留学生が気軽に日本人と交流できる環境を提供し、留学中に起こる様々な不安要因を軽減することです。ただし、工学部の留学生は研究室で既に研究室のメンバーと交流していることが多いので、ポスターや告知メールを見て気になったイベントのみに参加するといった形が一般的です。

留学生サポーターの具体的な活動としては、留学生向けの授業である華道や書道の手伝い、季節ごとのイベント開催を行っています。去年は毎週体育館を使って、バドミントンやバレーボールといったスポーツイベントを行ったり、近くの公園で暗闇に隠されたお札を見つける肝試しイベントを行ったりしました。



[本学との合同イベントもやります]

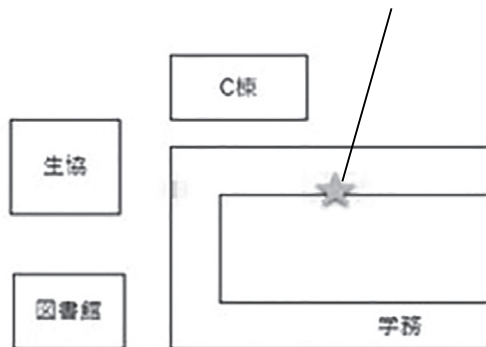
時々、本学との合同イベントを開催することもあります。例えば、2022年のクリスマスには新山口駅のイルミネーションを本学の人たちと一緒に楽しむ合同イベントが行われました。また2023年の夏には、山口市の維新公園にてBBQイベントも開催しました。今後の展望としては、ときわ動物園と一緒に訪れるイベントなどを企画したいと考えています。コロナ禍で飲食や車での移動が制限された2022年までに比べると、活動が緩和されてきたので、様々なイベントを開催していきたいと考えています。



もし、在学生で興味を持った人がいれば以下の教室にお越しください。お待ちしております。

【場所】

常盤キャンパス 留学生アドバイザー室
(本館1階学務係の反対側にあります。)



“ときわスマートチャレンジ” 令和5年度採択団体紹介

「ときわスマートチャレンジ」は、常盤工業会が行っている学生活動支援のひとつです。工学部学生が自由な発想で取り組むプロジェクト活動に対し、財政的支援を行っています。今年度採択された団体の活動内容についてご紹介します。

「Chemistry Energy」

代表 俵 悠理さん
(博士前期課程化学系専攻1年)



概要

身近なエネルギーの仕組みを題材にして高校生を対象とした訪問型の化学実験セミナーを実施。身近なエネルギーの仕組みを探求する面白さと魅力を発信し、化学の苦手意識を軽減させる狙いがある。

活動目的

多くの中学生・高校生に深刻なエネルギー問題に目を向けてほしいことから「エネルギー×化学」をテーマとし、以下の3つの狙いで学生に実験を体験してもらいたいと考えている。

- ①エネルギー×化学の実験を体験してもらうことで、先入観による化学に対する苦手意識を軽減する。
- ②大学生と一緒に実験をすることで、大学(研究者)の魅力を発信していく。
- ③身近にあるエネルギーを感じて、現在注目されているエネルギー問題について感心を持ってもらう。

「鉄道すごろく YAMAGUCHI2023」

代表 辻辺 貴晃さん
(博士前期課程建設環境系2年)



概要

山口県の鉄道(JR路線)の各駅をマス目に見立てたすごろくゲームイベント。実際にサイコロを振りながらゴールを目指す。

活動目的

山口県における鉄道利用は、2つの大きな課題が存在している。一つは、自家用車の利用率が高く、県内の観光地への移動手段も自家用車が多いこと。もう一つは鉄道を利用した観光についての情報が少ないことがあげられる。そこで、普段クルマでの移動が中心となっている学生・観光客・地域住民に公共交通(バス・鉄道)を利用する機会を提供し、公共交通を利用することで様々な魅力が発見できることを伝える。また、ゴール地点の駅や駅周辺のお店や観光地、電車旅行の魅力を共有してもらう。

鉄道を利用して外出することの魅力を感じるきっかけづくりを行い、ホームページを作成して鉄道を利用した外出の魅力を発信する。

会費の納入をお願いします

常盤工業会の活動は、皆様からの会費により運営されています。出費多端の折とは存じますが、ご理解ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

- ◎ 会費のお振込みは、会誌に同封の払込用紙（郵便局専用）をご利用ください。（払込手数料は本会が負担しますが、現金で払込を行う際の加算料金は会員様の負担となります。）
- ◎ インターネットバンキングをご利用の方は以下の項目をご参照ください。（手数料は本人負担となります。金額についてはご利用の銀行でご確認ください）
通信欄に氏名、卒学科名、卒年をご記入ください。

《振込先》

- 銀行名 ゆうちよ銀行
- 金融機関コード 9900
- 店番 159
- 預金種目 当座
- 店名 159店（イチゴキュウ店）
- 口座番号 0025085
- 口座名義（次のどちらで受付可能かはご利用の銀行により異なります）
 - ・（一社）常盤工業会（イチシャ トキワコウギョウカイ）
 - ・常盤工業会（トキワコウギョウカイ）

「常盤工業会奨学金」について

「常盤工業会奨学金」は、常盤工業会から工学部への寄付金により設置されているもので、返還を必要としない給付型の奨学金です。詳細につきましては山口大学工学部ホームページを参照、あるいは工学部学務課にお問い合わせください。

山口大学工学部学務課／ TEL 0836-85-9011

土木業界のより良い未来のために今のわたしができることを

社会建設工学科H14年卒 木村 真也

【シビルエンジニアを目指して】

初めて土木に興味を持ったのは、中学3年生の時です。1995年に発生した兵庫県南部地震、私は山口県宇部市の自宅で甚大な被害をテレビの画面越しに見ました。当時から将来は人のために動ける仕事に就きたいという漠然とした思いがあり、復興する様子を見ていくうちに土木に魅力を感じるようになりました。その後、山口県立宇部高等学校を1998年に卒業し、同年、地元の山口大学工学部に進学しました。研究室に配属された4年生から修士課程を含めた3年間は、地盤工学研究室で兵動正幸先生・吉本憲正先生ご指導の下、地盤の液状化対策や杭-地盤の動的相互作用等、地盤に関わる様々な研究に携わらせていただきました。自分でも意外だったのは、一見泥臭い地盤の世界に思いのほか魅かれたことです。あまりに魅了されたため、そのまま博士課程に進むか、就職するか悩んだ末、シビルエンジニアを目指し建設コンサルタントという道を選択しました。

【建設コンサルタントとして20年】

修了後の2004年に(株)エイト日本技術開発(当時の日本技術開発)に入社し、地盤や基礎の研究の経験を活かすため橋梁事業部に配属されました。2009年からは2年半の間、土木研究所の橋梁構造研究グループへ交流研究員として出向しました。出向中は、部分係数設計法など橋梁基礎の研究に携わり、その縁もあって今でも日本道路協会の道路橋基礎に関わるWGに参加しています。土木研究

所への出向を通して、そもそも橋梁設計とは何か、その考え方を大きく改める契機となりました。橋梁技術者としての技術力が技術提案を通じて試されるこの世界において、客観的な事実に基づき一貫した意思決定を物語として自らの頭で思考すること、そしてその過程を日本語でうまく会話で成立させることがいかに重要であるかを感じました。設計の結果得られる解は必ずしも一つではなく、基準に縛られているようで、実は設計者自身もつ哲学が思いのほか大きなウェイトを占めていること、それこそが橋梁設計の醍醐味であること。また、曖昧な部分が多い地盤や基礎の分野において、経験工学と言われるその本質的なところに、社会人になってからも触れることができました。地盤や基礎の土台は、先人たちの知恵と経験のもとに成り立っていて、いかにそれらが素晴らしいものであったか、知れば知るほど痛感します。このようなことを出向という形で、実際にその場に身を置いて肌で感じることはできたのは大きな収穫でした。

【社会人ドクターへの挑戦】

社会に出て、土研への出向などエンジニアとしての長い経験において改めて強く感じたことは、社会の全ては地道で基礎的な研究成果の積み重ねの上に成り立っている、ということです。この大切さに大学在学中には真の意味で気がついていませんでした。この思いがより強くなった時、昔、悩み諦めた博士課程への思いが再熟しました。丁度、京都大学

と(株)エイト日本技術開発で実施していた共同研究の関連でお付き合いのあった先生からお誘いをいただき、京都大学大学院工学研究科へ社会人ドクターとして進学するチャンスを得ました。そこでは道路橋の振動使用性という壮大な研究テーマを掲げ、6年かけてようやく博士(工学)の学位を取得しました。6年間、通常業務と学業の両立は思った以上に難しく、何度も絶望しましたが、どんなことでもやり続けることの大切さ、そして、続けていればどんな形であろうと必ず結果として現れるのだと改めて実感しました。「こんなわたしでもできたのだから、あなたならきっと大丈夫。」とこれから挑戦される方には伝えたいです。国際会議への出席など楽しい思い出も多く、これまでミュンヘン、ケープタウン、ミラノへ行きました。現在、来年コペンハーゲンで開催される会議に向けて論文を執筆中です。



【これからの土木のために、今、思うこと】

振り返ると、私の技術者人生において、人との出会いにとっても恵まれていました。山口大学地盤研の先生と同級生、(株)エイト日本技術開発の上司や同僚、土木研究所、京都大学とこれまで多くの方のサポートを受けながらここまでやってきました。目の前の問題や課題をクリアすることに精一杯で、未来の自分を見失いそうになっていた時、尊敬する上司にある言葉をかけられました。その言葉が、尊敬する上司の模倣をする必要など全くなく、自分にしか活躍できない場が必ずどこか

にあるのだと、そして自分は自分が思う道を進めばよいのだと気付かせてくれました。それこそが自分の責務だと確信しています。

これからのエンジニアとしての人生を考えると、20年前の山口大学大学院在学中、NGOの活動に参加した時のことをふと思い出します。当時、マレーシアの山間部の集落でホームステイをしながら森林伐採の現場を視察しました。ある時、小高い丘に連れて行かれ、この見渡す限りの森もいずれ伐採され集落で暮らす人々の生活の場が奪われること、伐採した多くは日本に輸出され建設分野で使われることを聞かされました。土木は人の生活を壊すこともあるが、技術者だからこそ守れるものがあると私は信じています。私は、やはり誰かのために動ける人生を歩みたいと思うと同時に、これまでの経験も含めて、土木の偉大な先人たちが繋いできた意思を百年後の人たちのために引き継げるように、これからしっかり準備をしていこうと思います。

今のわたしの根底には、山口大学地盤工学研究室での日々が間違いなく大きく存在しています。新しいことや難しいことへの挑戦も、その日々の経験のおかげで迷いなく実現できています。わたしは、山口大学～現在に至るまでの多くの経験や、技術士・博士といった資格を自身や会社の利益のためでなく、土木のために捧げる人生を歩みたいと思います。

【最後に】

本稿のご依頼を吉本憲正先生よりお声かけいただきました。これまでを振り返るよい機会になったと同時に、これから自分がやるべきことを見つめ直す時間も作れました。本当にありがとうございました。地盤研を含め未来の希望である学生たちのこれからのチャレンジを応援するために、微力ながらお手伝いできればと思います。

学部での日々を過ごして

感性デザイン工学科R5年卒 加納奈津花

はじめまして、加納奈津花と申します。私は令和5年3月に感性デザイン工学科を卒業しました。在籍中は学部4年生の1年間、建築計画学研究室に在籍し、農村計画の分野で集落の空間構成に関する研究を行いました。今回はこのような場に寄稿する機会をいただけたことにとっても感謝しています。恐縮ですが、目に留めていただけて嬉しいです。どうぞよろしく願いいたします。

【日本建築学会 優秀卒業論文賞】

この度、日本建築学会の優秀卒業論文賞という大変名誉ある賞をいただきました。

ご指導いただいた先生方、切磋琢磨した同期の皆様、応援してくれていた家族など、いろいろな方々からおめでとうの言葉をもらい、嬉しく思っています。



表彰式後の記念撮影 (R5.9 学会大会にて)

私の卒論のテーマは、山口県美祢市にある“別府弁天池”の湧水と周辺の集落空間との関係を解き明かすというものでした。別府弁天池は、青く美しい池として山口県内で人気の観光地でもあるので、この会誌を読まれて

いる方の中にも行かれたことのある方は多いのではと思います。池の湧水利用の維持・管理と、周辺に存在する家、道、水田などの空間資源の立地や成り立ちとがどのような関係を持っているのか、現地調査や文献資料をもとに、分析や図表の作成を行いながら研究していました。

研究に取り組むにあたり、本当に多くの方々にご協力をいただきました。研究の心構えから技術的なアドバイスなど多岐にわたり熱心に的確なご指導をくださった牛島先生。現地調査に協力してもらったり、卒論提出・発表間際の苦しい時期にお互いに励ましあったりした同期、先輩、後輩の皆様。およそ半年間にわたった現地調査にご理解ご協力をいただいた堅田地区の住民の皆様、公民館の職員の方々。地域についてお話をうかがったり、秋祭りや神楽などの行事にお誘いいただいたりと、大変お世話になり、貴重な経験をさせていただきました。今回いただいた卒論賞は本当に、私だけの力では得られなかったものです。たくさんの方への感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

【リノベ部の話】

研究以外では、旅行に行ったり建築を見に行ったり、日々課題に追われたり…と色々やっていましたが、中でも思い出深いのは“リノベ部”の活動です。山口県内のあちこちに出向いて大人の方たちとリノベーションをするという感デの学生で構成された学生団体です。私は長門市の湯本温泉や俵山温泉での店舗やゲストハウスのリノベーションに携わり

ました。学生の頃から建物や工具に触れて施工を経験できたのは本当に贅沢な体験だったと思います。今の仕事を選んだのも、そこで経験したことがきっかけのひとつです。

その中でも、4年生の夏に印象深い出来事がありました。リノベ部の Twitter を見たという県の観光推進課の方から連絡があり、美祢市での空き家改修プロジェクトに参加することになりました。話を聞いてみると、その空き家は、偶然にも研究していた別府弁天池のすぐ近くの場所にあることがわかりました。これで得られる人脈は研究で役に立つぞ！しめしめ…、という気持ちが内心ありはしましたが、でもそれ以上に、自分が大学生の間、夢中になって頑張っていた二つのことが一つの場所で繋がったような気がして、なんだか嬉しく思いました。別々に取り組んでいたはずの、一見お互い何の関係もなさそうなものが時間を経てリンクする、どこかで役に立つ、ということは生きていると本当にたまにですがあるような気がします。

【今の仕事】

卒業後は、地元の鳥根県松江市に戻り、カナツ技建工業(株)という会社に就職しました。土木・建築の公共工事から民間工事まで幅広く施工を行っている会社ですが、私はその中の住宅の新築・リフォーム工事を行う「住まいる部」という少し変わった名前の部署で、施工管理の仕事に従事しています。「従事している」と言ってもそんな偉そうなものでは

なく、先輩について現場へ行き、資材を運んだり掃除をしたり、現場監督の仕事や家を建てるうえで必要な知識について指導していただいたりと、まだまだ勉強途中です。覚えることは山のようにありますが、その分覚えれば覚えるほど色々なことがわかり、点と点が繋がっていくような感覚はとても楽しいです。その反面、他部署の同期や地元の友人と自分を比べて落ち込んだり、自分がなんの戦力にもなれずよちよち歩いている状態にいることに情けなさを感じたりと、沈んでしまうことも多々あります。でも、そんな上がったりが下がり下がりがあるからこそ成長できるのだと思っています。それを繰り返しながら、一人前の現場監督になれるよう、これからも努力を惜しまず進んでいきたいです。

【最後に】

今の私は間違いなく、宇部で過ごしたあの日々を支えられています。出会った人、経験した出来事、あれこれと考えていたこと。

色々書いてきましたが、“努力は報われる”とか、“人生全てに意味がある”とか、そんなことは全く思いません。でもほんの時たま、努力が報われたり、何かが意味を持ったりする瞬間があるから、それでいいのかなと思ったりもします。

皆様の健康と幸福を祈るとともに、そんな煌めいた瞬間に少しでも多く出会えることを願っています。

会誌「常盤」「会員だより」募集

会員の皆様より「会員だより」への投稿をお待ちしています。投稿には、会誌に同封しております「ハガキ」の通信欄をご利用ください。メールやFAXでもかまいません。次号「常盤」93号の原稿締切日は、令和6年5月10日です。

〈地域同窓会だより〉

東ソー 常盤会 令和5年度総会報告 会長 野村 正樹 (化工 60 年卒)

1. 「東ソー常盤会」組織紹介

東ソー(株)は、1935年に東洋曹達工業(株)として現在の山口県周南市に発足し、主に硝子の原材料に用いられる無水炭酸ナトリウムの製造から事業を開始しました。現在では社名が東ソー(株)となり、クロル・アルカリと石油化学からなるコモディティ分野と、機能商品からなるスペシャリティ分野を両軸とする総合化学メーカーとなりました。

BtoB 企業（主に企業向けの製造販売）であることから、知名度は決して高くありませんが、私どもの製品は、苛性ソーダ、重曹、ポリエチレンの他、壁紙、エスカレータの手摺、新幹線の床材、スポーツシューズ、歯科材料、信号機の発光ダイオード、半導体メモリなどの原材料として生活を支える身近な製品の中に広く使用されております。本社を東京都に構え、主な製造拠点として南陽事業所（山口県周南市）や四日市事業所（三重県四日市市）があります。その他、アジア、ヨーロッパ、アメリカなど、独自のグローバルネットワークを形成しております。

私ども「東ソー常盤会」は、東ソー(株)南陽事業所、または、南陽地区の東ソー関連企業に勤務する山口大学工学部、理学部、宇宙部高専の卒業生と委託研究生総勢 107 名（2023 年 10 月現在）からなる職域同窓会です。このうち会員の約 70% が山口大学

工学部卒業生となります。本同窓会の主旨は、常盤の地にて共に学んだ仲間が、単なる会社の先輩後輩や同僚の関係を越えて、仕事の課題はもちろん、プライベートな話題も気軽に相談、協力し合える関係の構築にあります。

本同窓会の発足時期は不確かですが、会則が 1979 年に制定されていることから、本年度で 40 年以上続く歴史ある同窓会です。

2. 総会実施報告

令和 5 年 10 月 13 日（金）に J R 新南陽駅近くの東ソークラブで総会を開催しました。コロナ禍で、ここ 4 年は紙面開催となっておりますが、コロナの規制緩和もあり念願の対面での開催となりました。久しぶりの集まりということもあり、総会員の過半数の 55 名もの方に参加していただきました。総会は、令和 4 年度の会計報告に始まり、役員及び幹事の改選が行われ、滞りなく終了しました。

総会後の懇親会は会長の乾杯で始まり、総会が開催されなかった 4 年間に入会した会員 16 名の自己紹介で会話が弾み大盛況となりました。最後は鬼村副会長（生産 H4 卒）による締め挨拶、一丁締めにて東ソー常盤会の益々の発展を祈念し閉会しました。

コロナも終息に向かい、今後は更に積極的に活動の幅を広げてより一層有意義な会となるよう精進いたします。



「東ソー常盤会」令和5年度総会

2023年 東日本ブロック 合同同窓会・懇親会報告

実行委員長 柿本 雅明(工化 50 年卒)

関東地区の学科同窓会（機械、資源機材、化学、土木建設、電電情報、生産機械）を中心に東日本地区の会員が集まって不定期ですが同窓会を開催しています。長いコロナ禍の閉塞期間も終わり、2022 年から徐々に各科の集まりが始まりました。2023 年は東日本地区合同で同窓会を開催することになり、10 月 14 日開催の常盤アドバンスドレクチャーに合わせて実施することにしました。

アドバンスドレクチャーでは、山口大学副学長の上西 研先生（機械 S58 卒）と丘の上 幸西ワイナリー代表の幸西義治氏（電子 S56 卒）の講演があり、その後合同同窓会に移りました。山田陽一工学部長から最近の工学部の話題を紹介していただき、続いて山口大学名誉教授の水田義明先生からご挨拶をいただきました。

ここで、会場の配置を懇親会用にセットし、写真撮影を行い、懇親会に入りました。乾杯のご発声は、出席者中一番の年長者である毛利至男様（機械 S36 卒）にお願いしました。その後、山口大学基金担当課長の戸部敬博氏から基金の現状についての説明と協力のお願いがありました。懇親会のテーブルには、基金事務局からいただいた「長州学舎」があり、幸西ワイナリーよりいただいたワイン試飲コーナーもあり、大いに盛り上がりました。

同窓生の出席者は、機械系 14 名、資源系 13 名、化学系 26 名、

土木系 14 名、電電情報系 9 名、生産機械 6 名の 82 名でした。ご来賓では霜仁会（医学部同窓会）関東支部長の小川健治様、鳳陽会（経済学部同窓会）東京支部の葛見雅之様、常盤工業会からは、古林隆司会長、山口大学からは、上西 研副学長、山田陽一工学部長、朝位孝二先生（社建）、中山雅晴先生、若佐裕治先生（電電）、比嘉 充先生（循環）、旧教員の水田義明先生、池田 攻先生、佐野 修先生、後藤誠史先生のご出席を賜り、総勢 90 名を超える参加となりました。会場は混雑気味でしたが、同窓生同士の会話は大いに弾みました。

今後も東日本ブロック内の交流を定期的に持ち、常盤工業会の地域活動活性化を図りたいと思っております。



懇親会の様子



常盤工業会東日本ブロック合同同窓会・懇親会 2023.10.14

合同同窓会記念撮影

思い出 — 海外赴任時のエピソード —

機械工学科33年卒 和田 宏

私はかつてスズキ自動車工業(株)で働いていた。1970年頃、アメリカへの輸出品で需要が多かったのはバイクだった。当時のロサンゼルスではパナソニック、ソニー、ホンダの看板が目立ち、各社とも迷わずドルを求めていただろうことが伺える。わが社にはバイク設計、4輪車設計ともにあったが、私はバイク設計に携わっていた。輸出部との共同作戦が忙しかった当時を振り返ってみたいと思う。

週明けにはコロラド州へ向かうロサンゼルス最後の週末、駐在員の方の案内で皆はディズニーランドに向かったが、私はアメリカを知ろうと私なりに計画を立て、コスタメサにある「カニングム自動車博物館」へと足を運んだ。フロアーで唯一の日本車はHonda600であった。カニングム氏の心の琴線に触れるものがあったのだろう。(クライスラーの「ルマン出場車」等珍しい車を集めたミュージアムだった。)

コロラドの次はサンフランシスコの北の降雪地帯で、雪道の性能評価を行った。この地帯の松ぼっくりは巨大で30cmはゆうにあり、いかにもビックフット(童話に登場する巨人)が住んでいそうな山だと感じた。雪道の作業は不慣れで大変な思いをしたが、その後は砂漠地帯に戻り、マウンテンバイク、VanVan90の砂丘性能評価を行った。

翌年の出張では、MXバイクのサスペンションの特許に詳しい林田さんとご一緒し、週末にcontract bridgeの腕試しをしようという話になったものの、少々遅刻してしまった私のせいで参加できなかったという苦い思い出がある。

その後、舷外エンジンを担当することと

なり、ミネソタ州 Thief river fall 市 Arctic cat社に出かけた時のことである。週末に時間があったので、インディアン居住区を見学したいと希望を伝えたところ、A社の方に治安を理由に止められてしまったので、Laundromatで暇つぶしをしていた。すると、大学生がクライスラーの新車で現れ自慢話を始めた。相槌を打っているうちにエンジンを見せてもらう流れになり、いざフードを開けたらなんとドイツ製エンジンであった。それが分かった時の彼の落ち込み方が酷く可哀想なほどだった。ヨーロッパ、アメリカ、日本で自動車の燃費競争が始まった頃のエピソードでとても印象に残っている。

1980年代半ばからファミリーカーをゼネラルモーターズへ供給することになり、エアコンの市街地渋滞走行試験に立ち会ったこともあった。

世界各地を回っていると、ドルの手持ちが少ない国では粗悪品であるワインを渡されることもあり大変だった。

コロナ禍が落ち着いた現在、贅沢を求めなければ快適であると思うが、ガソリン1ℓ180円は心穏やかではない。皆さんはドルをどうお考えだろうか。

2023年の国際経済は40年以上前とは異なるものの、「円安」という同じ表現で説明される問題が生活を圧迫していると感じる。できることなら、明るく民主的な暮らしが続けていけることを願うばかりである。

会員だより短信

樋口 英登 (機械 34) もうすぐ90歳を迎えますが、会誌が送付されてくるたびに学生時代を思い出し、学校や公園での思い出に浸っています。

内藤 正仁 (化工 48) 平成24年に初めて宇部で開催した化工48年卒の同窓会も10回目を迎えます。皆さんの希望で是非宇部でということで宇部生まれ宇部在住の私が再び幹事となり構想をねっています。これまで宇部以外に、神戸、福岡、東京、広島、下関、山口と場所を変えて行いましたが、恩師の岡本先生や福永先生もほとんどの会に参加して下さっており感謝の思いです。

中村 浩二 (工化 20) 生命のいぶきに感謝しつつ毎日を送っています。

藤川 修三 (工化 49) 晴耕雨読の毎日で、少し運動不足です。フレイルにならないようにしなければ！

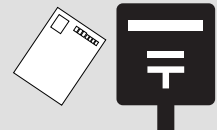
高橋 欣也 (機械 43) 満79歳になり、本年2月13日に登録し、YouTubeを始めました。旅行記や極東アジア駐在経験、趣味の世界や日々の畑仕事などを記したチャンネルを運営しています。ぜひご覧ください。YouTubeの検索欄に「高橋欣也」と入力するか、または次の「URL」を入力ください。

<http://www.youtube.com/@user-ub9bc9rw6y>

「現住所及びE-mailアドレス確認」のハガキを返送ください！

ハガキ

毎回、会誌を送るたびに、転居先不明等でかなりの部数の会誌が返送されてきます。現住所や勤務先、メールアドレスが変更になった方は、同封のハガキに記入され投函ください。



※登録されている情報(現住所、勤務先、メールアドレス)に変更のない方はハガキの返送は必要ありません。

ホームページ

常盤工業会のホームページよりご連絡の場合は「会員サービス」より「住所等変更登録フォーム」をご利用ください。

住所等変更登録フォームへのアクセスはこちらのQRコードよりどうぞ！



メール

メールが利用できる方は、なるべくメールでご連絡をお願いいたします。
〈連絡先〉常盤工業会事務局 tokiwa@bc.wakwak.com

— 会員の訃報 —

令和5年6月29日以降判明分（令和5年12月19日現在）
ご逝去を悼み、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

旧教員	島 徹史	令和5年9月3日	工化33	中村 敏雄	令和5年8月6日
			機械35	牧 宏之	令和5年10月12日
鉦機17	山田喜一郎	令和4年12月28日	鉦山35	山下 嘉之	令和5年1月3日
工作18	辛島 一雄	令和4年10月	工化35	山中 良一	令和5年10月26日
機械20	河口 義人	令和5年8月6日	土木35	勝村 豊	令和5年12月16日
機械20	坂口 栄二	令和5年12月3日	機械36	小野 達	令和5年7月15日
鉦機20	平本 定満	令和5年8月16日	鉦山36	四十塚正毅	令和5年10月12日
採鉦20	山根 敏男	令和4年8月	工化36	早田 嘉友	令和5年2月27日
機械22	田川 清二	(不明)	工化36	丸田 久	令和5年9月1日
機械22	森 伸太郎	令和5年2月21日	土木36	古谷 有一	令和5年3月25日
工化22	徳本 常夫	令和5年2月28日	機械38	梶 直則	令和5年7月29日
機械23	野村 昭典	平成27年12月5日	土木38	高田 彰忠	令和5年10月27日
機械23	前田 一也	令和5年6月18日	土木38	丸川 和見	令和4年3月16日
機械23	松井 邦友	令和5年6月16日	土木39	松岡万寿夫	令和4年11月24日
工化23	八田 汎祐	令和4年8月3日	電気39	船杉 力滋	令和5年6月16日
土木23	市原 義隆	令和5年1月27日	機械41	真栄里敏樹	令和5年8月3日
採鉦24	佐伯 英男	(不明)	鉦山42	田中 守	令和5年6月17日
土教24	高瀬 幸雄	令和4年5月25日	電気43	山下 豊春	令和5年4月21日
工化25	石川 昭和	令和5年3月16日	生産43	鈴木 健充	令和元年
機械26	石津 一	令和5年2月22日	土木46	木村 正	令和5年5月11日
土木26	吉田 昭治	令和元年6月16日	土木46	西 治久	令和5年10月
機械28	宮崎 豊茂	令和5年4月14日	工化48	飯田 実	令和5年4月5日
鉦山28	宮崎 茂昭	令和4年12月4日	生産51	中尾 正	平成24年1月1日
土木28	渡辺 貞夫	(不明)	院土木51	山口 孝一	(不明)
鉦山29	中村 修二	令和5年8月4日	工化54	江中 勝則	平成30年10月4日
土木30	芝尾 英一	令和5年6月6日	化工58	加藤 啓治	令和2年
鉦山31	中村 治司	令和5年3月14日	建設60	浅井 和博	(不明)
機械32	山本 耕一	令和5年9月10日	設計H8	森川 慎吾	令和5年2月9日
土木32	中野 重光	令和5年5月	知情H20	都地 威嗣	令和5年3月4日
機械33	福田昌太郎	令和5年2月			

学生のプロジェクト活動を支援します

常盤工業会では、山口大学工学部学生が主体的に取り組む活動（山口大学工学部を内外にアピールできるもの、地域貢献性のあるもの）に対し、財政的な支援を行っています。興味のある方はぜひ、常盤工業会事務局までご連絡ください。

常盤工業会事務局 / TEL 0836-32-7599

告知板

関西本部月例会のご案内

(毎月第2金曜日ですが都合で変更する場合があります)

令和6年の開催日：

1/12、2/9、3/8、4/5、※5/10、6/14、7/5、8/2、9/13、10/11、※11/8、12/6
(※5月・11月は変更の可能性あり)

時 間：午後5時30分～8時30分

場 所：中央電気倶楽部 2F 201号室

大阪市北区堂島浜 2-1-25 TEL06-6345-6351

JR北新地駅より7分、地下鉄四つ橋線梅田駅より6分

(堂島地下街南詰 C-93 番出口を出る)

会 費：3,500円程度

常盤工業会会員の皆様、月例会は令和5年11月で483回となりました。昭和52年に始めて47年目に入ります。令和7年4月で500回を迎えます。これからも続けて参りますので多数ご参加下さいませようよろしくお願い申し上げます。関西にお住まいの方、他地区の方も出張等でご来阪の折、お時間があれば、お立ち寄り下さい。

関西本部長・事務局 高村 和男
事務局 小金 健

「常盤」原稿募集！

会員の皆様より広く「常盤」の原稿を募集しています。

投稿締切日

「常盤」93号(令和6年8月発行)への投稿 令和6年5月10日まで

「常盤」94号(令和7年2月発行)への投稿 令和6年10月20日まで

投稿にあたっての注意事項

- 原稿と写真をそろえて tokiwa@bc.wakwak.com にお送りください。
- タイトル・写真も含めて1頁以内におさまるように原稿をお書きください。
- 「会員だより」(短信)は、同封の「ハガキ」通信欄をご利用できます。
- 写真は元画像(jpeg等)を別途添付して送ってください。
- 投稿者に文章の修正をお願いする場合や誌面の都合で変更、割愛することがあります。
- 編集委員会の責任で原稿の修正をさせていただく場合があります。
- WEB版にも掲載いたします。

【お問合せ】常盤工業会事務局 TEL (0836) 32-7599

— 会費納入のお願い —

常盤工業会で行っている母校の支援、在学生の支援、地域同窓会交流活動、会員相互の交流活動、学術交流活動等、常盤工業会の事業のすべては皆様方に納入していただいている会費で運営されております。

是非、常盤工業会の活動にご理解を賜り、常盤工業会の活動がより活発で充実したものになるよう皆様方の積極的なご支援をお願い申し上げます。

会員(学生は除く)の皆様の会費納入方法

- 年会費： 3,000円 年会費は何年分でも前納できます。
- 10年分一括前納：25,000円 10年分の会費を一括納入することにより割安となります。
- 60歳以上の会員の終身会費
60歳以上の会員が年齢に応じて一定額の会費を一括納入することで、以後の会費納入は不要となります。
 - 70歳以上：20,000円
 - 65歳以上：30,000円
 - 60歳以上：40,000円
- 会費の免除：80歳以上の会員で直近の10年間滞りなく会費を納入している場合、ご本人が申告することにより会費免除の適用を受けることができます。

【払込手数料に関する注記】

本会が作成している常盤工業会会費専用の払込取扱票（郵便局）を利用して払込を行う場合の手数料は本会負担となります。この場合において、現金で払込を行う際の加算料金については会員様の負担となりますのでご注意ください。

会員各位の会費納入状況の確認について

会員皆様の会費納入状況は、「常盤」送付時の宛名ラベルに表示されています。
会費納入状況により表記の仕方が異なりますので以下をご参照ください。

ラベル表記例① **終身会費または会費免除適用**

終身会費納入済または会費免除適用の方ですので、「会費納入は不要です」という表示です。

ラベル表記例② **会費 次回 令和6年度分より**

「次回は令和6年度分の会費よりお願いします」という表示です。

会員個人々の納入状況により異なる表示となります。

注記

- ※宛名ラベルは、会誌送付時より一定期間前のデータに基づいて作成されています。作成後に会費を納入された場合は、宛名ラベル面の表記に反映されない場合があります。ご了承ください。
- ※在学生（博士後期課程除く）については、会費に関する表記はありません。

会員の皆様、いつも「常盤」をご愛読いただき誠にありがとうございます。本92号から編集委員長を務めさせていただくこととなりました河村 圭と申します。「常盤」の編集には9年ぶりに関わることとなりました。前編集委員長である朝位孝二先生また編集に関わられた皆様から、洗練された誌面を引き継ぐ大役を仰せつかったことは、大変光栄に存じます。編集委員長としては、『繋ぐ』を意識して、「常盤」が、卒業・修了生皆様、在学生、工学部教職員、さらに工学部に関係しておられる皆様をより密に繋ぐチャンネルとなるよう誌面を作り上げていきたいと思っています。

さて、本号から、繋ぐことを意識して編集しました。例えば、表紙の写真です。この空間は、工学部の新たな学びと憩いの空間となっております。中央の通りでは、平日には向かって左奥に位置する講義棟へ行き来する学生の流れがあり、左に位置するFAVO Caféでは談笑する学生が見られ、右に位置するラーニングラボ (L-lab.) では講義に集中する学生や教員の姿をガラス越しにみることができ、両サイドのウッドデッキが呼応した大学らしい活気があふれた空間となっております。さらに、この空間に隣接した福利厚生

棟1F〈ホール・ラウンジ・ピロティ〉が、ネーミングライツにより、学生が構内で過ごすことができる快適な空間Area-Cとして再生され、学生や教員を繋ぐだけでなく、企業と大学を繋ぐ役割も担っております。機会があれば、ぜひ、工学部散策に足を運んでいただければと思います。

また、工学部研究者との新たな繋がりも、誌面がきっかけとなればと強く願っております。本号の記事に詳細はありますが、山口大学大学研究推進機構産学公連携・研究推進センターが産業界の皆様と研究者を繋ぐ役割を担っており、共同研究・受託研究・学術指導等の仕組みが整備されておりますので、ぜひ、お仕事の問題解決・発展のために、気軽にお問合せいただき、大学の知や技術を活用していただければと思います。

最後になりましたが、本号へ寄稿していただきました方々に厚くお礼を申し上げます。今後も、編集委員また事務局の皆様とともに、よりよい誌面を会員の皆様にお届けできるように、「常盤」の編集に取り組みたいと思います。卒業生皆様の忌憚のないご意見とご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

(知情H7 河村 圭)

「常盤」編集委員長：河村 圭
(知能情報工学科)

編集委員

森田 実 (機械工学科)
吉本 憲正 (社会建設工学科)
山吹 一大 (応用化学科)
山田 洋明 (電気電子工学科)
藤田 悠介 (知能情報工学科)
小林 剛士 (感性デザイン工学科)
田中 一宏 (循環環境工学科)

常 盤 92号

令和6年2月10日発行
発行 一般社団法人 常盤工業会
編集 『常盤』編集委員会
〒755-0039 宇部市東梶返1-10-8
TEL (0836) 32-7599
FAX (0836) 22-7285
E-mail tokiwa@bc.wakwak.com
<https://tokiwa-k.sakura.ne.jp/>
払込口座 01550-5-25085
印刷 児玉印刷株式会社

メールアドレスをご連絡ください



常盤工業会から、会員の皆様に向けて情報発信を行うにあたり、メールアドレスをお知らせいただきたく存じます。すでにご登録いただいている方につきましても、変更等により届かないケースが増えてきていることから、現在ご使用のメールアドレスについて今一度お知らせいただけますと幸いです。

CHECK

山口大学ドメインのものや、勤務先メールアドレスは、卒業後や退職後に届かなくなるケースが多いため、その他のメールアドレスをお知らせください。

ご連絡方法について



1. 現住所・勤務先とあわせてお知らせいただく場合

常盤工業会ホームページの

「**会員サービス**」>「**住所等変更登録フォーム**」よりお知らせください。

右記QRコードからフォームへアクセス可能です。

住所等変更
登録フォーム
QRコード



2. メールアドレスのみお知らせいただく場合

現住所・勤務先等に変更はなく、メールアドレスのみお知らせご希望の場合は、下記いずれかでご連絡をお願いいたします。

① 問合せフォームよりご連絡

常盤工業会ホームページの

「**会員サービス**」>「**常盤工業会に関する問合せフォーム**」よりお知らせください。

右記QRコードからフォームへアクセス可能です。

問合せフォーム
QRコード



② 事務局メールアドレスへ直接ご連絡

下記項目をあわせてお知らせください。

- ・氏名
- ・卒科・卒年（在学学生は所属学科名・入学年）
- ・新規メールアドレス

送信先▶ 常盤工業会事務局 / tokiwa@bc.wakwak.com